

2024年5月全国特別集会

主題：神の新約エコノミーの四つの層の意義

メッセージ 1

第一の層——使徒たちの教え

聖書：エペソ 2:19-20. 使徒 2:41-42. ヘブル 1:1-2.

ヨハネ 14:10. 5:24. 16:12. コロサイ 1:25-27. 啓 22:18-19

- I. 神の新約エコノミーにおける第一の層の意義は、使徒たちの教えです——使徒 2:42：**
- 一. 使徒たちの教えだけが神のエコノミーにおいて堅く立つことができ、また永遠に至るまで堅く立つことができます。
 - 二. 召会は使徒たちと預言者たちの土台の上に建てられていることを覚えておく必要があります——エペソ 2:19-20。
- II. ペンテコステの日に救われた三千人の信者は、使徒たちの教えと交わりを堅く持ち続け、パンをさくことと祈りを堅く持ち続けました——使徒 2:41-42：**
- 一. 教えと交わりは第一組となっています。それは、使徒たちの教えと交わりであり、神のエコノミーと直接の関係を持ち、召会、すなわちキリストのからだの一を守るためです。両者とも唯一のもので：
 1. 使徒たちの教えは一つ思いを維持する要因です——使徒 2:42 前半、46 前半。
 2. わたしたちは使徒たちの教えの中に自分を制限するなら、すなわち神の新約エコノミーの教えの中に制限するなら、一の中に守られ、また一つの目標のために、一つの道を持ちます。
 3. 召会の中には唯一の教え、すなわち使徒たちの教えだけがあるべきです。それだけでなく、唯一の交わりだけがあるべきであり、この交わりは使徒たちの教えから生まれたものです。
 4. 使徒たちの交わり以外の交わりは、みな分裂です。わたしたちの交わりは使徒たちの交わりの中になければなりません。
 - 二. パンをさくことと祈りは第二組となり、それは信者のクリスチャン生活の実行です。
- III. 新約の教え全体は、使徒たちの教えであり、神が御子の中で彼の新約の民に語られた、神の託宣です——ヘブル 1:1-2：**
- 一. 宇宙には、神の語りかけというすばらしいものがあります——ヘブル 1:1-2：
 1. 新約の時代において、神は多くの方法で、あるいは預言者たちを通して神の民に語るものではありません——1 節。
 2. 新約の時代において、神はただ御子のパースンの中で語ります——2 節。
 - 二. 神はまず人としての御子の中で、四福音書の中で語りました——ヨハネ 14:10. 5:24. 16:12. 10:30。
 - 三. 次に神は使徒たちを通して、霊と成った御子の中で、使徒行伝と二十一の書簡（ローマ人への手紙からユダの手紙まで）の中で語りました——ヨハネ 16:12-15. マタイ 28:19-20. ヘブル 2:3-4. II ペテロ 3:15-16. コロサイ 1:25-27。
 - 四. 第三に、神は使徒ヨハネを通して、七つの霊と成った御子の中で、啓示録の中で

語りました——啓 1:2, 4. 2:1, 7。

五. 神は新約の教えの中で語り、それはパウロとヨハネを通して完成されました：

1. 啓示された奥義としての神の言葉はパウロを通して完成されました——コロサイ 1:25-27。
2. 新約全体はヨハネの著作を通して完成されました——啓 22:18-19。

六. 御子の中でのこの語りかけである使徒たちの教えは、足洗い、バプテスマ、頭のおおいなどの事柄を強調していません。これらは、新約の啓示の中にある神の永遠のエコノミーに関する基本的で、内在的で、中心的で、基礎的なものの中には含まれていません。

IV. 使徒たちの教えは、神が肉体と成ることから新エルサレムの究極的完成までの、神の新約エコノミーの唯一の神聖な啓示です。それは三つの神聖で奥義的な時期におけるキリストの満ち満ちた務めによって遂行され、神の永遠のエコノミーを完成します——エペソ 3:8-10：

- 一. 第一の時期、肉体と成った時期において、神を人の中へともたらし、人性において神を表現し、彼の法理的な贖いを完成するためです——ヨハネ 1:1, 14, 18。
- 二. 第二の時期、包括の時期において、神の長子として生まれ、命を与える霊と成り、彼のからだのために信者たちを再生するためです——ローマ 8:29. I コリント 15:45 後半、I ペテロ 1:3, 23。
- 三. 第三の時期、強化の時期において、キリストの有機的な救いを強化し、勝利者を生み出し、新エルサレムを究極的に完成します——啓 5:6. 2:7. 21:2。

V. 使徒たちの教えは満ち満ちた福音の内容であり、新約の一部を含むだけでなく、新約全体を含んでいます——ローマ 1:1-4。

VI. 使徒たちの教えは召会の憲法です。召会はそれを保持し、完全にその制御の下にしなければなりません——I コリント 4:17. 7:17：

- 一. 使徒たちの教えはクリスチャン信仰の憲法です——ユダ 3 節. I テモテ 1:19. 6:12. II テモテ 4:7。
- 二. 使徒たちの教えは、召会の憲法であり、至る所の諸召会で同じように普遍的に教えられるべきです——I コリント 4:17. 7:17：
 1. 使徒たちの教えは、神のエコノミーのためであり、そしてその教えは主イエスの健康な言葉です——I テモテ 1:3-4. 6:3。
 2. すべての教えは、使徒たちの教えの境界と範囲の制限を受けなければなりません。
 3. キリスト教には、使徒たちの教えの境界の外にある多くの教えのゆえに、多くの道があります。
 4. 今日のクリスチャンの間のすべての問題、分裂、混乱は、みな一つのことによります。それはただ使徒たちの教えの唯一の啓示を重んじることをしないからです。

三. 召会の中で、ただ唯一の教え、すなわち使徒たちの教えだけがあるべきであり、異なる教えがあるべきではありません。

四. この憲法は、すべての憲法と同じように、正しく解釈されなければなりません。

VII. 使徒は、使徒たちの教えと異なるどのような教えも許しませんでした——I テモテ

1:3-4 :

- 一. 使徒は、唯一の信仰以外の他の信仰を許しませんでした——ガラテヤ 1:7-9。
 - 二. 使徒は、キリストの教えを踏み越える教えを許しませんでした——Ⅱヨハネ 9-11節。
 - 三. 異なる教えは、旧約時代における神のエコノミーと異なるものを含みます。
 - 四. 使徒は、神の新約エコノミーにおける唯一の啓示と異なる教えを教えの風と考えました——エペソ 4:14。
 - 五. どのような人も思いのままに神の聖なる著作を曲解してはならず、正しく、真っすぐに少しも曲解することなく解き明かすべきです——Ⅱペテロ 3:16. Ⅱテモテ 2:15。
- VIII. 召会が祝福されるのは、召会が使徒たちの教えと交わりを堅く持ち続けることによります——使徒 2:42, 46. 6:7。
- IX. 正しい務め、すなわち神の新約エコノミーの務めを判断する上での決定的な要因は、使徒たちの教えです——エペソ 4:11-12 :
- 一. 使徒たちの教えを教えているなら、その人の働きは新約の務めの中にあります。
 - 二. 唯一の務めは、神が定めた務めであり、使徒たちの教えにしたがっている務めです。
- X. わたしたちは使徒たちの教えにしたがい、追従し、それに基づいて奉仕すべきです——使徒 2:42. テトス 1:9 :
- 一. わたしたちが認識しなければならないのは、わたしたちの歩んでいる道が新約の使徒たちの教えに従っている道であるということです。
 - 二. すべては使徒たちの教えであり、それはまた神の新約エコノミーであり、神の新約における信仰であって、それをわたしたちの導きとします。
 - 三. 働きであれ、召会であれ、みな使徒たちの教えにかかっています。使徒たちの教えは、召会と働きの憲法です。

務めの書物からの抜粋 :

神の新約エコノミーの四層の意義

第一の層——使徒たちの教え

わたしたちが見るのは、使徒たちの教えだけが神のエコノミーにおいて堅く立つことができ、また永遠に至るまで堅く立つことができるということです。わたしたちは、召会が使徒たちと預言者たちの土台の上に建てられていることを覚えておく必要があります。旧約では律法が主体であって、預言者たちは補助的な存在でした。新約では、使徒たちが主体であって、預言者も補助的な存在としていました。いずれも原則は同じです。これは、神の新約エコノミーの第一の層の意義です。

使徒たちの教えにしたがって奉仕する

世界の六大陸にいる何万人もの聖徒たちがみな、一つの働きを行なっているのだとしたら、だれが率先しているのでしょうか？ キリストが率先していると言うのはとても奥義

的なことです。実行上、真のリーダーは使徒たちの教えです。わたしたちはみな、使徒たちの教えに従い、追従し、それに基づいて奉仕するべきです。（リー全集、1988年、第2巻、「全時間訓練、命の言葉」、第8章、未訳）

新約聖書の教え全体

使徒たちの教えとは、新約聖書の最初のページから最後のページまでの教え全体です。それは単なる新約聖書の一部ではありません。新約聖書の二十七巻すべてが使徒たちの教えです。

神は御子の中で彼の新約の民に語る

使徒たちの教えである、新約聖書の教え全体は、神が御子の中で彼の新約の民に語られたもの、神の託宣です（ヘブル 1:1-2）。ヘブル人への手紙第1章1節から2節は次のように言っています、「神は、昔は多くの部分において、多くの方法で、預言者たちを通して、父祖たちに語られました。これらの日々の終わりには、御子の中でわたしたちに語られました」。新約では、神は御子という一人のパーソンの中でのみ語られます。神が御子（イエス・キリスト）の中で語られたのは四福音書だけであって、使徒行伝と書簡では、神はペテロ、パウロ、ヤコブ、ヨハネ、ユダの中で語ったように見えるかもしれませんが、しかしながら、ペテロ、パウロ、ヤコブ、ヨハネ、ユダが神の御子から分離されていると、わたしたちは考えるべきではありません。彼らは神の団体的な御子の肢体です（I コリント 12:27）。使徒行伝第9章で、タルソのサウロがイエスに従って行く者たちを迫害していたとき、サウロは自分がイエスを迫害しているということを認識していませんでした。サウロは、自分が迫害しているのはステパノと他の信者たちだけであると考えていました。しかし、イエスは、ダマスコの途上でサウロに現れました。使徒行伝第9章4節から5節は次のように言っています、「彼は地に倒れ、『サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか?』と言う声を聞いた。そこで彼は言った、『主よ、あなたはどなたですか?』。すると主は言われた、『わたしはあなたが迫害しているイエスである』」。これは、単に個人のイエス（キリスト）ではありませんでした。これは、拡大された、団体的なキリストであり、ステパノ、ペテロ、彼に従って行く者たちはみな、彼の肢体でした。新約聖書全体は、神がだれを通して語られたかにかかわらず、御子の中で語られたものです。なぜなら、新約の語り手たちは、キリストの肢体として語ったからです。

今日でさえも、神はなおも拡大された、団体的な御子の中で語っておられます。わたしたちがキリストの肢体として語る時、わたしたちの語りかけはキリストの語りかけとなります。わたしは集会で語る前に、次のようにいつも祈りをささげたいのです、「主よ、わたしがあなたと一つ霊となるように、わたしと一つ霊となってください。主よ、わたしの語りかけの中で語って、わたしの語りかけをあなたの語りかけとってください」。このような祈りは、語りかけに違いをもたらします。わたしはこのように語る時、単に自分自身の中で語るのではなく、御子の中で語っているのです。

神が御子の中で彼の新約の民に語られたものは、四福音書における主イエスの、第一の、直接の教えでした。主イエスのこれらの直接的な教えは、健康な言葉です（I テモテ 6:3前半）。この言葉は、彼の最初の弟子たちのグループに語られたものであり、彼のすべての弟子たちに教えられるべきものでした（マタイ 28:19-20）。主はマタイによる福音書第

28章19節から20節で、彼の最初の弟子たちのグループにすべての諸国民を弟子とし、三一の神の中へとバプテスマして、「わたしがあなたがたに命じておいたことを、すべてするように教え」るように命じられました（20節前半）。

神が御子の中で語るものはまた、真理の霊の教えでもあります（ヨハネ16:12-15）。ヨハネによる福音書第16章12節から13節で、主は弟子たちに次のように告げられました、「わたしには、あなたがたに言うべき事がまだ多くあるが、あなたがたは今、それに耐えることができない。しかし彼、すなわち実際の霊が来る時、あなたがたをすべての実際へと導く。なぜなら、彼は自分から語るのではなく、彼が聞くことを語り、来たるべき事をあなたがたに明らかにするからである」。その霊が新約聖書の著者たちを通して語られたものは、イエスの語りかけでした。

真理の霊の教えは、敬虔にしたがった教えです（Iテモテ6:3後半）。敬虔とは、単なる敬虔さではなく、神の表現である生活、すなわち肉体における神の現れです。敬虔にしたがったその霊の教えと語りかけは、使徒たちを通して行なわれました。この教えは、使徒行伝においてペテロとパウロを通してまず行なわれました。それは、彼らの言葉、彼らの働き、彼らの働きの方法を含んでいます。使徒行伝におけるペテロとパウロの言葉、働き、働きの方法は、その霊の語りかけでした。この教えは次に、ローマ人への手紙からヘブル人への手紙までのパウロの十四の書簡において行なわれました。パウロの十四の書簡がなければ、新約聖書には埋めることのできない隔たりが存在することになるでしょう。真理の霊の教えは次に、ヤコブの手紙におけるヤコブ、ペテロの二つの手紙におけるペテロ、ユダの手紙におけるユダ、ヨハネの三つの手紙と啓示録におけるヨハネを通して行なわれました。

聖書の書の案配は、その霊の靈感と主権ある制御の下にありました。使徒行伝の後には、パウロの十四の書簡、ヤコブ、ペテロ、ヨハネ、ユダの短い書、そして啓示録が続いています。パウロの語りかけは長いですが、ヤコブ、ペテロ、ユダ、ヨハネの手紙における彼らの語りかけは比較的短いのです。書簡の長さの違いは、集会でのわたしたちの機能にたとえることができます。わたしたちはみな、語るべきですが、ときにはわたしたちの語りかけは短くあるべきです。召会は短い語りかけを必要としています。しかしながら、さらに長く語らなければならない人もいます。パウロとヨハネの比較的長い語りかけは、わたしたちとキリストとの奥義的な結合をわたしたちに啓示しています。これらの二人の著者は、わたしたちがキリストの中にいることと、キリストがわたしたちの中にいることとを何度も語っています。ヨハネによる福音書では、しばしば、前置詞の「の中へと」（into）がよく用いられており、それはたとえば「の中へと信じる」とよく語られています（ヨハネ7:5, 31, 38-39, 48）。ヨハネによる福音書第14章20節は次のように言っています、「その日には、わたしがわたしの父の中におり、あなたがたがわたしの中におり、わたしがあなたがたの中にいることを、あなたがたは知るであろう」。パウロもまた、わたしたちがキリストの中におり、キリストがわたしたちの中にいると何度も言っています（ローマ8:1. IIコリント5:17. ガラテヤ2:20）。

パウロとヨハネを通して完成される

新約の教えにおける神の語りかけは、パウロとヨハネを通して完成されました（コロサイ1:25-26. 啓22:18-19）。啓示された奥義としての神の言葉は、パウロの文書によって

完成されました。コロサイ人への手紙第1章25節から26節は言います、「わたしは、神の執事職にしたがって、その奉仕者になりました。それは、あなたがたのためにわたしに与えられたものであり、神の言を完成するためです。その奥義は、各時代にわたって、また各世代にわたって隠されてきましたが、今や神の聖徒たちに明らかに示されています」。新約全体は、ヨハネの文書によって完成されました。啓示録第22章18節から19節は言います、「わたしは、この巻物の予言の言を聞くすべての者に証しする。もしだれでもそれに付け加えるなら、神はこの巻物に書き記されている災害を、その者に加える。また、もしだれでもこの予言の巻物の言から何かを取り去るなら、神はこの巻物に書き記されている命の木から、また聖なる都から、その者の分を取り去る」。聖書の他のどの書もこのことを言っていない。ヨハネの最後の書だけが、彼の文書は新約の啓示全体の完成であると宣言しています。

神の新約エコノミーに関する唯一の神聖な啓示

新約聖書の教え全体、すなわち、使徒たちの教えは、神の新約エコノミーに関する唯一の神聖な啓示です。この啓示は、神の奥義であるキリストと（コロサイ2:2-3、9）、キリストの奥義である召会（エペソ3:3-11）、すなわち、偉大な奥義であるキリストと召会に関するものです（5:32）。これら三つの項目は、神の新約エコノミーを構成します。水によるバプテスマ、異言、頭のおおい、足洗いなどの項目は神のエコノミーの焦点ではありません。これらの項目は聖書にありますが、それらは神のエコノミーの極めて重要な部分ではありません。神のエコノミーの重要な構成要素は、神の奥義としてのキリストと、キリストの奥義としての召会、宇宙における偉大な奥義としてのキリストと召会です。新約全体は、三一の神、すべてを含むキリスト、三一の神の有機体としての召会、すなわち、有機的なキリストのからだという三つのパーソンあるいは項目に関する独特で神聖な啓示です。これら三つは極めて重要であり、不可欠であり、基本的なものです。わたしたちの語りかけが新約エコノミーにしたがっているかどうかは、これら三つの項目との関係によって測ることができます。

神の完全な福音の内容

使徒たちの教え、新約の教え全体、神の新約エコノミーに関する唯一の神聖な啓示は、神の完全な福音の内容です（ローマ1:1-4）。ローマ人への手紙第1章1節から4節は神の完全な福音であり、単なる新約の一部ではなく、新約全体を構成しています。

クリスチャン信仰の憲法

使徒たちの教えはクリスチャン信仰の憲法です（ユダ3節、Iテモテ1:19、6:12、IIテモテ4:7）。クリスチャン信仰はわたしたちの信仰を指しています。わたしたちの信じること、わたしたちの信仰、わたしたちの信条は大きな事柄です。それは新約全体です。わたしたちの信条は長いものです。それはマタイによる福音書の初めから始まり、啓示録の終わりまで続きます。この信条はわたしたちの信じることであり、わたしたちの信じることはクリスチャン信仰です。

この唯一の啓示と異なる教えは使徒たちによって許されていない

この唯一の啓示と異なる教えは使徒たちによって許されていません（Ⅰテモテ 1:3-4、Ⅱヨハネ 9-11 節）。テモテへの第一の手紙第 1 章 3 節と 4 節でパウロはテモテに告げますが、「わたしがマケドニアへ出発する時あなたに勧めたように、あなたはエペソにとどまっていて、ある人たちが異なる事を教えたり、……することがないように命じなさい」。異なる教えには旧約の事柄も含んでいましたが、それらは神の新約エコノミー、神の新約の分与とは異なっていました。そのような教えは使徒たちによって許されていませんでした。ヨハネの第二の手紙 9 節から 11 節は言います、「すべてキリストの教えを踏み越えて、その中にとどまらない者は、神を持っていません。この教えの中にとどまっている者は、御父と御子の両方を持っています。もしあなたがたの所に来る人が、この教えを持って来ないなら、彼を家に迎え入れてはいけません。彼に『喜びなさい！』と言ってもいけません。彼に『喜びなさい』と言う者は、彼の邪悪な働きに加わることになるからです」。ヨハネは、そのような人には何も言わずに、彼らから離れるように警告しています。ある人たちは自分がそれほど厳しくあることはできないと感ずるかもしれませんが。クリスチャンであると主張しても、使徒たちの教え、新約の教え、神の新約エコノミーの唯一の啓示とは異なる教えを教える人は、邪悪な事を行なう者であり、わたしたちは彼にあいさつをしてはなりません。異なる事を教えることは小さな事柄ではありません。それはサタンの直接の働きです。

この唯一の信仰以外の信仰は使徒たちによって許されていない

この唯一の信仰以外の信仰は使徒たちによって許されていません（ガラテヤ 1:7-9）。ガラテヤ人への手紙第 1 章 8 節は言います、「たとえわたしたちであろうと、天からの御使いであろうと、わたしたちがあなたがたに宣べ伝えてきたものと別の福音を、あなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです」。パウロはローマ人への手紙第 12 章 14 節で、わたしたちを迫害する人たちのをのろうのではなく、祝福するように教えていますが、ここでパウロは、ある人たちは呪われるべきであると告げています。使徒たちは彼らの教えにおいて、すなわち、新約の教えにおいて、神の完全な福音の内容、わたしたちのクリスチャン信仰の憲法において非常に厳格でした。

すべての教えは、神の新約エコノミーに関する唯一の啓示とは異なり、 使徒たちは教えの風とみなしている

神の新約エコノミーに関する唯一の啓示と異なるすべての教えは、使徒たちによって教えの風と考えられました（エペソ 4:14）。この点において、使徒たちは非常に厳格でした。これらの教えの風は、人の欺きの悪巧みです。「悪巧み」というギリシャ語は、ギャンブルでサイコロを振ることを指しています。さまざまな教えは、わたしたちを欺く目的でサイコロを振ることのようです。この悪巧みは、人の欺きのこうかつさの中にあります。さまざまな教えは、欺き、欺まん、偽りです。それらは人をサタンの体系的な誤りの体系に誘導することを目的としています。新約エコノミーとは異なることを教える人の悪巧み、こうかつさの背後には、サタンの体系があります。サタンには体系があります。そして彼は可能な限り、彼はすべてのクリスチャンをその中へと誘導しようとしています。彼の体系の目標、目的は、聖徒たちを神聖な啓示の中心路線からそらし、キリストのからだの建造を妨げ、破壊さえする意図を伴っています。ある教えの風の中は、邪悪には見えません。しか

しながら、邪悪な要因は、聖徒たちをサタンの誤りの体系の中へと誘導し、彼らがキリストのからだの建造をするのを妨げ、キリストのからだの建造を破壊さえします。教えの風は、また幼子が波によってもてあそばされ、それによって、召会生活において不安に悩まされます。

教えの風を識別する良いテストがあります。特定の教えはわたしたちを冷たくし、さらには死なせます。そのような教えを聞いた後、わたしたちは内側で死にます。特定の教えは、主に従うわたしたちの士気、主の權益を顧みること、召会と主の回復を愛することを取り去るかもしれません。たとえそれがどれほど良いものであれ、聖書的に見るとしても、もしある教えがこれらの消極的な影響を及ぼしているなら、これはこの教えが風であって、神の新約エコノミーの中心路線からわたしたちを吹き去ります。わたしたちの多くは、教えの風に吹かれて苦しんできました。わたしたちは主に従い、召会を愛し、主の回復を愛し、聖書を愛するという士気を持っていたかもしれませんが、そのような教えを三十分聞いた後、わたしたちは士気を失い、死んでしまいました。

新約のエコノミーに関する神の唯一の啓示と異なる教えが良いものに見えなかったなら、だれもその教えを受け入れなかったでしょう。教えは魚介類にたとえることができますが、レビ記の予表によれば、海からの特定の食べ物は汚れています。レビ記第 11 章 10 節から 11 節は、ひれとうろこのない水生動物は汚れていると告げています。清さの保証はひれとうろこにあります。新約の教えの「ひれ」と「うろこ」は、三一の神、すべてを含むキリスト、キリストの有機的なからだとしての召会です。これらによって、わたしたちは他の人たちの教えを測ることができます。もしその教えがこれら三つの項目と関係がないなら、それには「ひれ」や「うろこ」はありません。そのような教えがどのように見えても、安全のためにわたしたちはそれを受け入れるべきではありません。

新約はただ二十七冊の書を内容としていますが、その中には多くの事実があります。ある人はコリント人への第一の手紙第 14 章の異言で語ることなどのような特定の点を強調し、それも新約の教えの一部であると主張するかもしれませんが、それには「ひれ」や「うろこ」がないかもしれません。わたしたちは教えを受け入れることにおいてわたしたちの「食べることを識別することを学ばなければなりません。わたしたちはあらゆる教えをあまり容易に受け入れてはなりません。教えの風をもたらす者たちはしばしばとても愛らしく見え、一見してわたしたちに対する顧みと関心を示しているように見えます。しかしながら、わたしたちは彼らの言葉を性急に受け入れるべきではありません。わたしたちは彼らの教えが「ひれ」や「うろこ」であるかどうかを考察しなければなりません。

使徒たちの教え、新約の教えは極めて重要です。わたしたちが使徒たちの教えと異なることを聞くときはいつでも、わたしたちは悩まされたり、影響を受けたりすべきではありません。わたしたちはただ使徒たちの教えに戻って来るべきです。しかしながら、わたしたちは教えを正しく識別することができないなら、特定の聖徒たちと交わって、いくらか助けを受けるべきです。神の新約エコノミーにおいて、神によって啓示され、承認されているただ一種類の教えがあります。それは使徒たちの教えです。わたしたちはこの教えを堅く持ち続ける必要があります(使徒 2:42)。(リー全集、1989 年、第 4 巻、「使徒たちの教えと新約のリーダーシップ」、第 1 編、未訳)

新約の務めにおけるリーダーシップは使徒たちの教えにかかっている

もし召会が使徒たちの教えにしたがって歩かないなら、これは真に問題です。……わたしたちは認識しなければなりません、わたしたちが取っている道は人の組織の道ではなく、新約における使徒たちの教えに従う道です。あらゆることは使徒たちの教えのリーダーシップ、すなわち、神の新約エコノミー、新約における神の信仰の下にあります。働きにおいてであれ、召会においてであれ、わたしたちは使徒たちの教えに依り頼むべきです。使徒たちの教えが召会と働きの構成です。（主の回復における重要な導きの言葉、第2巻聖徒たちを導いて主によって定められた新しい道を実行する、第12章）

参考と読み物の資料：

1. ミニストリー誌、1998年2月、「神の新約の務めにおける極めて重要な内容」、第1編（未訳）。
2. リー全集、1988年、第2巻、「命の言葉」、第8章（未訳）。
3. リー全集、1988年、第2巻、「主の回復における重要な導きの言葉」、第2巻、第12章。
4. リー全集、1989年、第4巻、「使徒たちの教えと新約における導き」（未訳）。

2024年5月全国特別集会

主題：神の新約エコノミーの四つの層の意義

メッセージ 2

第二の層——新約の務め

聖書：使徒 1:17, 25. 2:42. 20:24. 21:19. I コリント 4:1-2, 9:17. 12:5.

II コリント 4:1. 3:3, 6-9. 11:2. エペソ 3:2, 9. 4:11-12, 15-16. コロサイ 1:25. 4:17.

I テモテ 1:12. II テモテ 2:4-5. 啓 21:14, 18-20

- I. 神の新約エコノミーの第二の層の意義は、新約の務めであり（II コリント 4:1）、新約の使徒たちの教えの務めが義認をもたらし、人々に命を与えることです（18節）。わたしたちみなが受け入れるのはこの唯一の務めです。
- II. 新約の務めは、すべてを含むキリストの計り知れない豊富を神の家の人たちの中へと分け与えることです——エペソ 3:2, 8-9. コロサイ 1:25. 使徒 1:17, 25. II コリント 4:1 前半. エペソ 4:12, 15-16 :
 - 一. 神のエコノミーは神の執事職となり、使徒たちとすべての信者に与えられます——エペソ 3:2, 9. コロサイ 1:25. I コリント 9:17 :
 1. ギリシャ語の *oikonomia* (オイコノミア) には二つの意味があり、神にとっては「オイコノミア」は神のエコノミーを指し (エペソ 3:9)、わたしたちにとっては「オイコノミア」は執事職を指します——2節。
 2. 神の執事職は、手順を経て究極的に完成した三一の神を、キリストの中で神が選び、贖い、再生した人の中へと分け与え、神を彼らの命、命の供給、すべてとならせて、キリストの唯一のからだとしての、彼の団体的な表現としての、召会を建て上げます——エペソ 3:14-21. コロサイ 1:25. 3:4, 10-11。
 3. 「執事」のギリシャ語は (*oikonomos*, オイコノモス) で、「分与する執事」、「家の中の供給を家の中の人に分与する家庭の管理人」を意味します——I コリント 4:1-2。
 4. 神の願いは、甘美で親密な執事職を通して、神ご自身を神聖な三一の中で神の家族の中へと分与することです——II コリント 13:14。
 - 二. この執事職に基づいて、新約の務めがあります。そしてこの務めは、神のエコノミーと符合しています。すなわちそれは、この務めが、神が彼ご自身を彼の選ばれた者たちの中へと分与し、キリストのからだを建造することに等しいということです——エペソ 4:16。
- III. 新約の務めは唯一無二であり、また団体的なものです——使徒 1:17. II コリント 4:1. I テモテ 1:12. I コリント 3:5. II コリント 3:6 前半 :
 - 一. 主から見て、新約時代には一つの務めしかありません——使徒 1:17, 25 :
 1. 新約時代では、神の唯一の意図はからだの建造であり、この一つの目的のために、神は一つの働きと一つの務めを持っておられます。
 2. 新約エコノミーの中の務めは一つの団体的な務めであり、さまざまな賜物を持つ多くの人々が含まれています。パウロ、彼の同労者、そしてその他の使徒たちはみな、この務め、すなわち新約の中の唯一の務めを受けました——II コリ

ント 4:1 前半、Ⅰテモテ 1:12、Ⅰコリント 3:5。

二. これらの聖書の節は、新約の務めが団体的であることを啓示していますが、他のいくつかの節は、務めが個人的であるかのようにも示しています——使徒 20:24、21:19、Ⅱテモテ 4:5、コロサイ 4:17:

1. わたしたちはすべての信者がこの一つのからだの肢体であることを知る必要があります。全体的な面から言うなら、からだには一つの団体的な務めしかなく、多くの務めがあるわけではありません。
2. ただし、この務めはキリストのからだの奉仕であり、キリストのからだには多くの肢体があるので、各肢体にはそれぞれその個人の務めがあります。したがって、肢体の面から言えば、多くの務めがあります——ローマ 12:4-5、Ⅰコリント 12:5。
3. からだの各肢体の多くの務めは、分かれた務めではなく、団体的な務めの一部です。わたしたちは見てきましたが、すべての肢体の務めを合わせると、それは団体的な務めと等しいです——エペソ 4:12。

三. わたしたちはからだを破壊するような務めは受け入れません:

1. 召会の墮落と多くの分裂が存在するため、現在において表面上では多くの務めが存在するように見えます。
2. 主の回復の中でこの唯一の務め、すなわち使徒の務めの継続に分を持っているわたしたちは、宗派や、分裂の務めを受け入れることはできません。もしわたしたちが受け入れるならば、回復はすぐに破壊されるでしょう。

四. わたしたちはさまざまな角度から同じ一つの事を供給する必要があります。わたしたちはみな、同じ事を語る必要があります(参照、ローマ 15:6、Ⅰコリント 1:10)。この一つの事は、キリストをわたしたちの命またすべてとすることを回復して、召会を建造することです(コロサイ 3:4、2:6-7、16-17、19、エペソ 4:15-16)。同じ事を語ることは祝福です。

五. わたしたちはさまざまな務めが必要ですが、これらの務めはその層が積み重ねられている必要があります——啓 21:14、18-20:

1. 十二の土台はさまざまな色の宝石であり、各層は他とは異なります。その理由は、使徒たちがさまざまな務めを持っていることによります——14、18-20 節。
2. しかし、これらの十二の土台は横に並べられているのではなく、その層が積み重ねられています。これらの十二の土台はすべて、唯一の表現の中の唯一の証しをもたらし、支えます——18 節。

IV. わたしたちは務めの内在的な本質を見る必要があります——Ⅱコリント 3:8-9:

- 一. わたしたちは、自分の才能が新約の務め的一部分を担えることに合格させることができる应考虑すべきではありません。なぜなら、わたしたちの才能は新約の務め的一部分ではなく、また新約の務めと全く何の関係もないからです。
- 二. 新約の務めの事柄において、わたしたちは主イエスの上で五重の標準の模範を見ます。神の新約の務めを遂行することにおいて、主イエスは自分自身によって何も行なわず(ヨハネ 5:19)、自分の働きを行なわず(4:34、17:4)、自分の言葉を語らず(14:10、24)、自分の意志で何も行なわず(5:30)、自分の栄光を求めませんでした(7:18)。

三. もしわたしたちがこの五つの点に欠けるなら、わたしたちが何をしようとも、それはみな人々を分裂させ、分裂を引き起こします。しかし、これらの点に入らなら、わたしたちは神の新約の務めの中にいます。もしこれらの点にわたしたちがすでに入っているなら、わたしたちは神の新約の務めの中にいます。

**V. 真の務めは信者たちの花婿である主イエスへの愛をかき立てることができます——
Ⅱコリント 11:2. ルツ 3:1-2 と 1 節のフットノート 1。**

**VI. 唯一の新約の務めは使徒たちの教えに基づいており、使徒たちの教えをその内容と
範囲とします——使徒 2:42. テトス 1:9 :**

一. 正しい務め、すなわち神の新約エコノミーの務めの要素を決定するのは、使徒たちの教えによります。

二. もし人が使徒たちの教えを教えるなら、彼の働きは新約の務めの中にあります。もし使徒たちの教えに従って人々に教えないなら、彼の働きは新約エコノミーの務めに分を持っていません——エペソ 3:8. ガラテヤ 1:6-9。

三. わたしたちが供給するものは、新約の務めの性質に属している必要があります。ある務めが新約の務めの一部であるかどうかは、三つの支配する原則を適用することを通して証明することができます :

1. 手順を経た三一の神が彼の選ばれた人の中へと分与される原則——ヨハネ 1:1, 14. 7:37-39. I コリント 15:45 後半. II コリント 13:14。

2. キリストと召会の原則——コロサイ 2:2, 9-17. エペソ 3:4-6. 1:22-23. 2:13-22。

3. キリスト、その霊、命、召会の原則——使徒 2:36. II コリント 3:17-18. コロサイ 3:4. マタイ 16:18。

VII. 新約の務めはキリストのからだを建造するためです——エペソ 4:12 :

一. 神の新約の務めは神の新約エコノミーを完成するためであり、それは神の御子のために三一の神の表現としてのからだを得ることです——ローマ 12:4-5. I コリント 12:12-13. エペソ 1:22-23. 4:4, 16。

二. エペソ第 4 章 12 節が啓示していることは、キリストのからだを建造することが務めの働きであるということです。

三. 新約の啓示によれば、召会は務めを建て上げるためではなく、逆に、務めが召会の建造のためです。したがって、働き人の働きは召会を彼の務めの下に従わせることではありません。

務めの書物からの抜粋 :

使徒の神の恵みの執事職

神聖な三一のエコノミーは、使徒の神の恵みの執事職となりました。エペソ人への手紙第 3 章 2 節は言います、「あなたがたのために、わたしに与えられた神の恵みの執事職について、あなたがたは確かに聞いていることでしょう」。この「執事職」という語と、第 1 章 10 節の「分与」という語は、原文ではどちらも「オイコノミア」です。「オイコノミア」は第一に、神の経綸、神のご計画、神のエコノミーでした。それから、この神のエコノミーは、神が使徒パウロに与えた執事職となりました。エコノミーと執事職とは実は一つです。この意味は、使徒が行っていたことは神がご自身のエコノミーの中で行なっ

いるということです。わたしたちが行なっていることは、まさに神が今日行なっていることであるべきです。わたしたちは神のエコノミーを遂行する者であるべきです。神のエコノミーを遂行することは、神の恵みの執事職です。こうした執事職は、恵みとしての神ご自身を彼が選んだすべての人に分与するためです。この執事職から使徒たちの奉仕が生まれ、そしてこの奉仕は神のエコノミーと一致します。キリストのからだを生み出すために、わたしたちの奉仕は、神が選びの民にご自身を分与することと一致していなければなりません。これが執事職としてわたしたちに与えられた神の奉仕です。新約の中で啓示されたこの務めは唯一です。神は二つのエコノミーや二つの執事職を持っておられるのではありません。神はただ一つの神聖なエコノミーとただ一つの神聖な執事職を持っています。この執事職から唯一無二の使徒の務めが出てきました。それは、彼が選んだ人々の中に神の恵みとしてのキリストを分与して、キリストのからだである召会を建造し、手順を経た三一の神の有機体とならせ、彼の全き永遠の表現となさせます。（「神聖な三一の中で、また神聖な三一と共に生きる」、第二章）

その務めともろもろの務め

今日、多くのクリスチャンはさまざまな務めについて語り、あらゆる種類の務めを受けることについて話します。その務め（単数）ともろもろの務め（複数）の事柄は簡単ではありません。コリント人への第二の手紙によれば、ただ一つの務め、唯一の務めがあるだけです。第4章1節でパウロは言います、「こういうわけで、わたしたちはあわれみを得て、この務めを受けたのですから、落胆しません」。一方で、パウロはここで「わたしたち」と言います。もう一方で、彼は、これらの務め（複数）ではなく、「この務め（単数）」について語ります。この節によれば、一つの務めを持っている多くの人があります。しかしながら、コリント人への第一の手紙第12章5節でパウロは、「務め（複数）には区別があります」と言っています。

その務めが唯一であり、しかも同時に多くの務めがあることが、どうしてあり得るのでしょうか？ 答えは、新約で神は一つの働きを持っておられるだけであるということです。さらに、神はただ一つの務めを持って、彼の唯一の働きを遂行されます。すべての使徒たち、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、パウロ、テモテは、同じ務めを遂行しました。ペテロは一つの務めを、パウロは別の務めを、テモテはさらに別の務めを遂行したのではありません。これは、さまざまな種類の務めを遂行する今日の伝道者、教える者、奉仕者の状況です。

さまざまな種類の務めがあるので、多くの異なる宗派があるのです。バプテスト派はバプテスマの務めを遂行して、バプテスマの働きを成し遂げます。長老派は別の種類の務めを遂行して、長老派の働きを成し遂げます。監督派、ルーテル派、メソジスト派についても同じです。これらすべての宗派は、彼ら自身の働きのために、さまざまな種類の務めを遂行します。新約聖書によれば、この実行は正しくありません。新約聖書は、唯一の務めがあることを啓示しています。今日、諸地方召会はさまざまな種類の務めを遂行して、多くの働きを成し遂げているのではありません。神は唯一の務めによって遂行される一つの働きを持っておられます。

今やわたしたちは、この唯一の務めが何を行なうのかを見なければなりません。新約の唯一の務めは、キリストを人に供給します。それはキリストを人の中に、その霊として内側に、また義として外側に書き記します。これが唯一の務めの機能です。福音を宣べ伝え

る時、わたしたちはこのように宣べ伝えるべきです。同じように、聖書を教えたり、聖徒たちを啓発したり、召会を建造する時、このようにして行なうべきです。召会生活の中でわたしたちが行なうあらゆることは、キリストを聖徒たちの中に書き記すことであるべきです。これについて、わたしたちは多くの異なる務めを持つべきではありません。

新約聖書は、務めは一つであり唯一であることを明らかに示していますが、さまざまな務めについても語っています。これらの務めは、召会の中のさまざまな奉仕のことです。コリント人への第一の手紙第12章5節が務め（複数）について語る時、それはさまざまな奉仕を意味しています。召会生活では、聖徒たちはさまざまな奉仕にかかわっています。例えば、ある人たちは子供を顧みます。これは一種の奉仕です。ある人たちは、さらに若い人やさらに弱い人を牧養します。これはもう一種の奉仕です。しかしながら、これらのさまざまな奉仕は、みな唯一の務め、唯一の奉仕を遂行するのです。すでに見てきたように、唯一の奉仕の機能は、キリストを神の選びの民の中に供給することです。どのようにして子供たちを顧みるべきでしょうか？ わたしたちはキリストを供給する方法でそうすべきです。同じように、どのようにして若い人たちや弱い人たちを牧養すべきでしょうか？ 牧養することにおいて、わたしたちはキリストを人に供給すべきです。姉妹たちが共に集まって祈る時でさえ、みなキリストを供給すべきです。多くの奉仕は唯一の奉仕のためです。多くの務めは一つの務めのためです。

わたしたちは、神の働きのための唯一の務めを達成しつつあるすべての務めを受け入れます。しかし、神の唯一の働きとは異なるものを打ち立て、達成しようとしている務めを受け入れることはできません。例えば、長老派を打ち立てることを目標としている務めを受け入れることはできません。またバプテスト派、ルーテル派、監督派の働きを遂行しようとする務めを受け入れることもできません。これらの務めは分裂的です。ですから、わたしたちはそれらを受け入れることはできません。わたしたちが受け入れる務めは、唯一の新約の務めのためにあるものです。

その務めと務め（複数）についてのこの理解に注意して、新約聖書、特に各書簡をもう一度読み通すなら、この理解の正しいことがわかるでしょう。わたしはこの路線に沿って、その務めと務め（複数）という言葉に特別な注意を払って各書簡を学ぶことを、あなたがたにお勧めします。あなたがそのような学びをするなら、さまざまな務め、奉仕はすべて、一つの新契約の務めを遂行するためであることがわかるでしょう。

神の新約エコノミーを遂行するために、その務めは唯一です。しかし、この唯一の務めを達成するために、特に召会生活においては、多くの奉仕の必要、さまざまな務めの必要があります。しかし、これらのさまざまな務めと奉仕はみな、新契約の務めである唯一の務めを遂行するためであるという事実を、わたしはもう一度、強調しましょう。この務めは、聖徒たちにすべてを含む神を書き記します。神は、わたしたちの内側ではその霊であり、外側ではわたしたちの表現としての義です。（「コリント人への第二の手紙ライフスタディ」、第26編）

一つの務め

主の目に、新約時代にはただ一つの務めがあるだけです。ペテロはユダの代わりが必要であることについて語って、ユダは「わたしたちの間に数えられ、この務めの分を割り当てられていました」（使徒1:17）と言いました。十二使徒はすべて「この務め」の中にい

ました。このことは、新約において唯一無二の務めがあることを示しています。何年前か、わたしはこのことを見ていませんでした。しかし、他の者たちの務めを受け入れることに関する論争のゆえに、わたしは時間を費やして、この事柄に関する純粋な御言を学びました。わたしの目は開かれて、十二使徒がすべて「この務め」の中にいたことを見ました。ですから、使徒たちはユダの代わりについて祈った時、主が「この務め……を、継がせ」るためにだれを選ばれたのかを示してくださるよう求めました（25 節）。

ある人たちは、「この務め」は十二使徒に限定されると議論するかもしれませんが。しかし、エペソ人への手紙第 4 章 11 節と 12 節は言います、「彼ご自身は、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧する者また教える者として与えられました。それは、聖徒たちを成就して、その務めの働きへと、キリストのからだの建造へと至らせるためであり」。11 節は、使徒たちから主の再来の時までのすべての期間と関係があります。神の新約エコノミーには、多くの使徒、預言者、伝道者、牧する者また教える者がいます。各世紀を通じて彼らは何千人といいました。それにもかかわらず、彼らはみな、聖徒たちを成就して、その務めの働きへと至らせるために与えられました。12 節が「もろもろの務めの働き」と言わずに「その務めの働き」と言っていることに注目してください。何千という賜物のある人たちがいますが、みな一つの務めの働きのためです。

新約時代の間、神の唯一の意図はからだを建造することです。神が宇宙を創造し、人を形づくり、贖いを完成されたのはすべてこのためでした。この一つの目的のために、神は一つの務めを持っておられます。神はこの新約時代に二つの活動を持っておられるのではありません。神は一つの活動と一つの務めを持っておられます。

新約エコノミーにおける務めは団体の務めであり、何千人という、賜物のある人々を含む務めです。ですから、コリント人への第二の手紙第 4 章 1 節でパウロは、「わたしたちは……この務めを受けた」と言っています。パウロは、「わたしはこの務めを受けた」、あるいは「わたしたちはこれらの務めを受けた」とは言っていません。パウロは「わたしたちは……この務めを受けた」と言っています。パウロ、彼の同労者、そしてその他の使徒たちはみな、この務め、すなわち新約の中の唯一の務めを持っていました。

コリント人への第二の手紙第 3 章 6 節でパウロは、神が「わたしたちを新しい契約の奉仕者として、資格づけてくださいました」と言っています。務めは奉仕です。すべての奉仕者は奉仕する者たちであって、この奉仕を遂行します。多くの奉仕者には多くの奉仕があるのではなく、一つの奉仕、一つの務めがあります。

わたしはテモテへの第一の手紙第 1 章 12 節のパウロの言葉が好きです。「わたしは、わたしを力づける方、わたしたちの主キリスト・イエスに感謝しています。この方はわたしを忠信な者と認めて、その務めに任命してくださいました」。この節でパウロは、「彼はわたしを、わたしの務めに任命してくださいました」とは言っていません。パウロは、主が彼を唯一無二の、団体の新約の務めに任命して下さったと言っています。わたしたちはみな、主が彼のあわれみと恵みによって、わたしたちを、キリストのからだを建造する団体の務めに任命して下さったゆえに、主を賛美する必要があります。

個人の務めと団体の務め

これらの節は、新約における務めが団体のものであることを啓示していますが、他の特定の節は、務めが個人のものであることを示しているかのようです。使徒行伝第 20 章 24

節でパウロは言います、「わたしが自分の行程と、主イエスから受けた務めを全うして、神の恵みの福音を厳かに証しするためには、自分の命を尊いとは思いません」。この節はパウロの個人の務めに言及しています。なぜなら、パウロは自分が主から受けた務めについて語っているからです。このゆえに、この節の務めは個人の務めです。

使徒行伝第 21 章 19 節は、明確に、はっきりとパウロの個人の務めに言及しています、「パウロは彼らにあいさつしてから、神が異邦人の間で、彼の務めを通して行なわれた事柄を一つ一つ述べた」。個人の務めに言及しているように見える他の節は、テモテへの第二の手紙第 4 章 5 節とコロサイ人への手紙第 4 章 17 節です。テモテへの第二の手紙第 4 章 5 節でパウロはテモテに命じました、「あなたの務めを十分に果たしなさい」。これは明らかに、テモテの個人の務めを果たすよう彼を励ましています。コロサイ人への手紙第 4 章 17 節は言います、「アルキポに、主にあつてあなたが受けた務めを心にとめ、それを果たすようにとってください」。これは確かにアルキポの個人の務めを指しています。

個人の務めについて語っている節を考えると、わたしたちはすべての信者が一つからの肢体であることを認識する必要があります。全体として、からだは一つの団体の務めを持っているのであって、多くの務めを持っているわけではありません。からだの中には多くの機能がありますが、からだの中の務めは一つです。例えば、わたしが語るとき、わたしの体全体が語ります。わたしの目、鼻、耳、腕、指、足のすべてがかかわっています。ですから、わたしの語ることは、わたしの体の務めです。この務めは団体のものです。しかしながら、わたしの体の各部分にも、それ自身の務めがあります。口が語り、手が身ぶりをし、足が支えます。しかし、すべての肢体の務めが共に加えられるとき、それらは合計して体の唯一の務めとなります。この例証は、からだの肢体の多くの務めが分離した務めではなく、一つの団体の務めの一部であることを示しています。

新約の務めは唯一無二であり、団体のものです。しかし、この務めはキリストのからだの奉仕であるので、またからだには多くの肢体がいるので、あらゆる肢体にはそれ自身の務めがあります。こういうわけで、肢体によれば、多くの務めがあります。しかしながら、全体としてのからだによれば、ただ一つの務めがあるだけです。あなたの務めは、団体の務めから分離しているべきではありません。からだには団体の務めがあり、からだのすべての肢体には個々の務めがあります。すでに見てきたように、肢体のすべての務めを共に加えると団体の務めに等しいのです。

からだを損なう務めを受け入れない

使徒たちの時代に宗派はありませんでした。召会の墮落と多くの分裂の存在のゆえに、今や多くの務めがあるようです。主の回復の中で唯一の務め、使徒たちの務めの継続にあずかっているわたしたちは、宗派や分派の務めを受け入れることができるでしょうか？いいえ、わたしたちはできません。もしわたしたちがそれらを受け入れるなら、回復は損なわれます。正当な務め、すなわち、神の新約エコノミーにしたがった務めは、キリストのからだを建造するためですが、他の務めは宗派を建て上げるためです。このような状況であるので、わたしたちは宗派を建て上げる務めを受け入れることはできません。

わたしが台湾にいた時、ある宗派の宣教師たちはわたしに、彼らがわたしの務めの働きを高く評価しており、わたしを招いて彼らの会衆に語り、彼らを助けてほしいと告げました。彼らはまた、わたしが彼らを招いてわたしたちに語ることを提案しました。あなたは

このような提案にどのように答えるでしょうか？ 正しい答え方は、リー兄弟と彼の同労者たちはキリストのからだを建造するよう主によって託されていると言うことです。しかしながら、宗派の中にいる人たちは宗派を建て上げています。わたしたちにこのことを行なう負担はありません。そうではなく、わたしたちの負担は、からだの建造のために新約における務めを継続することです。宗派の中にいる人たちの務めは宗派を建て上げるためであるので、わたしたちは彼らを招いてわたしたちに語ってもらうことはできません。もしわたしたちがこのような務めを取って代わられるなら、からだは損なわれます。こういうわけで、わたしたちはそれらの務めを受け入れることができないのです。わたしたちは、彼らの中に真実なものがあることを認めます。しかし全体として、彼らの目標は宗派を建て上げることです。これはからだの建造にとって妨げであり、それに反対するものです。

務めのこの事柄について、わたしたちは主の照らしを必要とします。わたしたちは主に行き、自分自身を主に開く必要があります。もしわたしたちがこのことを行なうなら、光は務めに関するこの教えの上で輝き、その教えはわたしたちにとって真理、実際となります。何年も前に主がこの事柄についてわたしを明らかにしてくださった時から、わたしは決してそのことからそらされたことはありません。なぜなら、その光の輝きがとても明るいからです。その光はわたしのすべての歩みを照らします。ですから、わたしは宗派を助けることはできません。さらに、わたしたちは宗派の中にいる人たちを招いて、わたしたちに語ってもらい、それによって主の回復に損害を引き起こすことはできません。宗派の中にいる人たちの務めは、キリストのからだを建造するという神の永遠の定められた御旨以外の目的のためであるので、わたしたちは彼らと協力することはできません。わたしたちは彼らを助けることも、彼らから助けを受けることもできません。ある人たちは、わたしたちがこのような立場を取るのには心が狭いと思うかもしれません。実際には、わたしたちは心が狭いではありません。しかしながら、務めに関する光はわたしたちに輝いています。わたしたちがそれを見たことを否定することはできません。この光のゆえに、わたしたちがこの事柄において変わることはあり得ません。(リー全集、1978年、第3巻(下)、「真理メッセージ」、第4編)

新約の務めの性質

何であれわたしたちが供給するものは、新約の務めの性質のもので、特別な務めが新約の務めの一部であるかどうかは、三つの支配する原則を当てはめることによって証明されることができます。第一は、手順を経た三一の神が彼の選びの民の中へと分与される原則、第二は、キリストと召会の原則、第三は、キリスト、その霊、命、召会の原則です。もしあなたの教えが三重のテストにパスできるなら、あなたの教えは新約の務め的一部分です。新約の務め的一部分のいかなる務めも主の回復の聖徒たちに歓迎されます。ところが、他の務めは回復にとって問題を起すだけででしょう。(リー全集、1984年、第2巻(下)、「長老訓練」、第3巻、第12章)

務めの働き——キリストのからだの建造

神の新約の務めとは、神の新約のエコノミーを完成させるためであり、それは神の御子のためにからだを得て、三一の神の表現とならせることです。唯一の新約の務めは、キリストのからだを建造することです。新約の使徒たち、ペテロ、ヨハネ、パウロ、テモテな

どはみな、この新約の務めに分を持っていました。今日、賜物のある者がみな、新約の務めに分を持って聖徒を成就する目的は、からだを建造するためです。信者たちは単に共に良い時間を過ごすためではなく、キリストのからだを建造するために一緒に集まるべきです。

エペソ人への手紙第4章12節は、キリストのからだを建造することが務めの働きであることを示しています。わたしは60年以上にわたり、主のために彼のからだを建造する働きを徹底的に享受しています。わたしたちの「趣味」はキリストのからだを建造することではなければなりません。わたしたちには最も偉大な働きと最も栄光ある事業があります。それは、すべての中ですべてを満たしている方の豊満であるキリストのからだの建造です。

(リー全集、1988年、第3巻、「成就されキリストのからだを建造する」、第10章、未訳)。

参考と読み物の資料：

1. 「命の言葉」、第8章。
2. 「コロサイ人への手紙ライフスタディ」、第11編。
3. 「エペソ人への手紙ライフスタディ」、第28編。
4. 「神聖な分与におけるさらに深い学び」、第13章。
5. 「コリント人への第二の手紙ライフスタディ」、第26—27編、第52編。
6. リー全集1978年第3巻(下)、「真理メッセージ」、第4編。
7. 「長老訓練」、第1巻、第3章。
8. 「新約エコノミーを実行するための神の定められた道」、第18章。
9. リー全集、1988年、第1巻、「新約の務めと新しい道の実行」、第1章(未訳)。
リー全集、1988年、第1巻、「バイエリアでのいくつかの交わりの記録」、第5章(未訳)。
10. 「新約の務めと使徒たちの教えと交わり」、第1章。
11. 「啓示録ライフスタディ」、第62編。
12. 「新約の務めと使徒たちの教えと交わり」、第3章。
13. リー全集、1984年、第2巻(下)、「長老訓練」、第3巻、第12章。
14. 「主の回復における重要な導きの言葉」、第2巻、第11章。
15. リー全集、1988年、第3巻、「成就されキリストのからだを建造する」、第10章(未訳)。
16. リー全集、1988年、第3巻、「香港での談話の記録」、第4章(未訳)。
17. ニー全集、第61巻、「主の回復における円熟した導き(1)」、第3編。

2024年5月全国特別集会

主題：神の新約エコノミーの四つの層の意義

メッセージ 3

第三の層——キリストのからだ

聖書：エペソ 1:22-23. 2:21-22. 3:19. 4:10, 12, 16.

コロサイ 2:19. 3:15. 啓 21:10

- I. エペソ第4章11節から12節においてパウロが言っているのは、賜物のあるあらゆる人は、聖徒たちを成就して、その務めの働きへと、キリストのからだの建造へと至らせるためであるということです。これは神の新約エコノミーの第三の層の意義です。
- II. 神のエコノミーはキリストのからだのためです——I テモテ 1:4. エペソ 3:9-11. 4:16 :
 - 一. 神の永遠のエコノミーは、神が人と成ることを通して、人が神格においてではなく、命と性質において神となるためであり、有機的なからだを生み出し、彼の有機体として、彼の増し加わりと表現となるためです——ローマ 8:3. 1:3-4. 12:4-5。
 - 二. わたしたちがここにいるのは、神の永遠のエコノミーを完成させるためであり、その目的は彼の御子キリストのために一つのからだを得ることです。このからは地方召会として実際化されなければなりません——エペソ 1:22-23. ローマ 12:4-5. 16:1. I コリント 1:2. 12:27。
- III. キリストのからは、三一の神とキリストにおける信者との神聖な構成です——エペソ 4:4-6 :
 - 一. 父、子、霊は人とミングリングされ、建造されてキリストのからだとなります——1:23. 4:12, 16。
 - 二. キリストのからの建造は、神の霊と人の霊における三一の神と三部分から成る人との構造です——I コリント 6:17. ローマ 8:16 :
 1. この構成は神と人との結合、ミングリング、合併です——ヨハネ 14:20。
 2. このような構成は、神性が人性の中へと構成されて、人の住まいとなることであり、また人性が神性の中へと建造されて、神の住まいとなることです——エペソ 3:16-17. 2:21-22. ヨハネ 14:23. 啓 21:2-3, 22。
 - 三. キリストのからは有機体であり、神性と人性を持ち、キリストを表現します——ヨハネ 15:1. エペソ 1:23. 3:19-21。
- IV. キリストのからは神の心の願いを成就して、神を表現し、サタンを滅ぼします——ローマ 12:4-5. I コリント 12:12, 27. エペソ 1:22-23. 4:4, 16. コロサイ 1:18. 2:19. 創 1:26-28 :
 - 一. 三一の神はわたしたちの中で働いて、キリストのからだを生み出し、建造します——エペソ 3:16-21. ローマ 8:11. 12:4-5。
 - 二. 新約の務めはキリストのからだを生み出すためであり、新約の務めがなければ、キリストのからだを生み出すことができません——I コリント 12:12-27. II コリント 3:6, 8-9. 4:1. 5:18。

- 三. キリストのからだは召会の内在的な意義です。からだがなければ、召会には意義がありません——ローマ 12:4-5. 16:1. I コリント 1:2. 12:12-13, 27。
- 四. 今日の召会におけるすべての問題は、キリストのからだに対して無知であることによります。最大の問題、唯一の問題は、からだを認識せず、からだを顧みず、からだを尊ばないことです——エペソ 1:17-23. I コリント 12:24-27。
- 五. キリストのからだを認識することは、主の正しい回復です。主はキリストのからだを回復し、キリストのからだの一を回復することを渴望しています——エペソ 1:23. 4:4。
- 六. 地上において、主には緊急の必要があります。彼はキリストのからだの実際が諸地方召会において現れることを渴望しています——ローマ 12:4-5. 16:16. I コリント 1:2. 12:27 :
 1. 今日、主が必要としているのは、一つの地方に一つの召会である地方の立場の諸召会だけでなく、さらに彼の豊満としてのからだを得ることです——エペソ 1:23. 3:19。
 2. キリストのからだ具体的に現れなければ、主イエスは戻って来ることができません——1:23. 4:16. 5:27, 30. 啓 19:7。

V. この回復は、キリストにはただ一つのからだがあるという真理に基づいています——エペソ 1:23. 4:4 :

- 一. 一つのからだは神の一つの召会であり、多くの地方において多くの地方召会として現わされています——I コリント 10:32 後半. 啓 1:4, 11。
- 二. 主の回復はキリストのからだを建造するためです。回復は、キリストのからだのためであり、いかなる個人、またはいかなる個別の地方召会のためでもありません——エペソ 4:16. コロサイ 2:19。
- 三. わたしたちの考慮において、キリストのからだは第一であるべきであり、地方召会は第二であるべきです——マタイ 16:18. 18:17. エペソ 2:21-22。
- 四. キリストのからだは神のエコノミーの目標であり、諸地方召会は神が彼のエコノミーの目標に到達するための手続きです——I コリント 12:12-13. 1:2. ローマ 12:4-5. 16:1, 4-5, 16 後半。
- 五. すべての地方召会は、宇宙におけるキリストの唯一のからだです——エペソ 4:4。

VI. わたしたちは宇宙的なクリスチャンとなって、キリストの宇宙的なからだの宇宙的な観点を持つ必要があります——エペソ 1:17-23. 2:21-22 :

- 一. キリストのからだは、宇宙に広がり、すべてを含む、無限に拡張するキリストの奥義的なからだです——エペソ 1:22-23. 3:19. コロサイ 3:11 :
 1. かしらであるキリストは、すべての天よりもはるか高く昇られた方であり、わたしたちは、このキリストの奥義的なからだ、彼の豊満です——エペソ 1:22-23. 3:19. 4:10。
 2. からだはすべての中ですべてを満たしている方の豊満であり、表現です——1:22-23. 4:10 :
 - a. キリストは万物のかしらとして召会に与えられ、召会はこの宇宙的なキリストのからだであり、この宇宙的なキリストのからだはすべての中ですべてを満たしている方の豊満です——1:23。

b. キリストご自身は宇宙的に広大であり、宇宙的に拡張しており、キリストのからだはこの広大で、拡張している宇宙的なキリストの豊満です。この意味は、キリストのからだも宇宙的であるということです——3:18-19. 4:16。

二. 宇宙的なクリスチャンは、エペソ第1章22節から23節と第4章10節で示された宇宙的な観点を持っている人です：

1. わたしたちはキリストのからだのビジョンを持っているかもしれませんが、わたしたちのビジョンは、キリストのからだの宇宙的なビジョンと比較すると、とても小さいものです——1:23。
2. わたしたちは小さく、狭い自己から離れ、一種の狂喜の中で、キリストの宇宙的なからだ、すなわち宇宙的に無限なキリストの豊満、表現を見て、触れる必要があります——3:19。
3. わたしたちはキリストの宇宙的に広大なからだのビジョンによって、震撼させられる必要があります——啓 21:10 :
 - a. ヨハネは霊の中で高い山へ連れて行かれて新エルサレムを見ました。わたしたちは彼のように、霊の中で高い「山」へ連れて行かれ、キリストの宇宙的なからだの宇宙観を得る必要があります——10節. エペソ 1:22-23。
 - b. わたしたちは霊の中で、キリストのからだの宇宙観を必要とします。それは、わたしたちの思いの中で考えたことがあるキリストのからだに関するどんなことよりも無限に大きいものです。

VII. 神のエコノミーの目標は、キリストの宇宙的なからだを建造することであり、この宇宙的なからだは新エルサレムにおいて究極的に完成します——エペソ 1:22-23.

4:12, 16. 啓 21:2, 10 :

- 一. からだは召会であり、召会是新エルサレムの縮図です。
- 二. 新エルサレムは来たるべきものであり、召会はその前身として今日、存在しているものです。新エルサレムはキリストのからだであるこの前身の満ち満ちた完成です。

務めの書物からの抜粋：

一つからだ、一つの神の召会を見る必要

主の民の間に無数の分裂がある今日の状況を見てください。そこには、「教会マーケット」があり、分裂と混乱に満ちています。アナハイムには、「アナハイムにある台湾の教会」と呼ばれる一つの分裂があります。中国大陸にあるわたしの故郷チーフーには、「中国英国教会」と呼ばれる一つの分裂がありました。論理的に言って、英国教会は英国にあるべきであり、台湾の教会は台湾にあるべきです。これは、何という混乱でしょう！ 今日、分裂だけでなく、混乱もあるのです。パンさきの集会で、ぶどう酒を用いるべきかグレープジュースを用いるべきかということで、人々は言い争い、分裂しています。彼らはまた、パンさきの集会でどの種類のパンを用いるべきかということで、分裂しています。

キリストのからだのどの部分も自治的になることはできない

最近わたしたちの間に、地方召会は自治的であるべきだと言う異なる教えがありました。

もしわたしたちがこのような教えを受け入れるなら、これはわたしたちが、召会はキリストのからだであることを見ていないことを意味します。わたしたちの体のどの部分が、自治的になることができるのでしょうか？ もしわたしたちの体の様々な部分が自治的であるなら、これはわたしたちの体が、ばらばらに切り裂かれていることを意味します。どうしてわたしたちは、血液の循環を自治的にすることなどできるのでしょうか？ 血液の循環は、わたしたちの体全体を通るものです。同じように、キリストのからだのどの部分も、自治的になることはできません。

しかし、ある人は議論して言うかもしれません、「リー兄弟、あなたは、召会の行政は地方的であり、独立しているべきであると言いませんでしたか？」。わたしはそのことを、何年も前に言ったかもしれません。しかし、もしあなたが今日、わたしにそのように言うことを繰り返すよう求めても、わたしはそうしないでしょう。わたしたちは、諸地方召会は独立していると思うかもしれませんが。しかし聖書の中に、わたしは独立という思想を見いだすことができません。キリストのからだの中で、だれがだれから独立しているのでしょうか？ アナハイムに在る召会は、ダラスに在る召会から独立しているのでしょうか？ わたしたちがキリストのからだについて語っている時に「独立」という言葉を持ってくるべきではありません。わたしたちは独立していません。むしろ、わたしたちはみな、お互いに頼っています。アナハイムに在る召会は、フルトンに在る召会に頼っており、フルトンに在る召会は、アナハイムに在る召会に頼っています。わたしたちは独立してはいません。わたしたちは、一つからだです。台湾の諸召会は、アメリカの諸召会から独立しているのでしょうか？ キリストのからだの中には、これはあり得ません。

諸召会は、事務的な事柄では異なるかもしれませんが、その事柄でさえも、彼らは独立していることを主張すべきではありません。もしアナハイムに在る召会が、夜中の二時に集会をするという決定をしたとしたら、どうでしょうか？ その責任者たちは、地方召会にはそれ自身の管轄権があり、だれも自分たちに干渉することはできない、と主張するかもしれません。しかし、サンタアナに在る召会は、「なぜ、あなたがたアナハイムの兄弟たちは、夜中の二時に集会するというような決定をしたのですか？」と尋ねるかもしれません。アナハイムの兄弟たちは、サンタアナの兄弟たちは自分たちに干渉すべきではなく、これは彼らに関係がないこと、アナハイムの召会は独立しており、それ自身の管轄権を持っていると言うかもしれません。しかし、夜中の二時に集会することは、特異なことであり、極めて異常なことです。この事柄では、アナハイムに在る召会は、サンタアナに在る召会から助けとなる忠告を必要とします。夜中の二時に集会するという決定をすることは、賢明ではありません。この例証は、事務的な事柄や実行的な事柄においてでさえ、わたしたちは他の召会からの忠告と助けを必要とすることを示しています。

多くの時、わたしは同労者たちとの交わりで調整されます。兄弟たちは、ある事柄におけるわたしたちの考えを変えるように、わたしに思い起こさせるかもしれません。この特別集会において、わたしたち兄弟たちは集会の前に集まり、さまざまな事柄について祈り、交わりました。ある兄弟たちはわたしに、わたしたちがパンさきの集会の前に集まる必要があるかどうか尋ねました。なぜなら、この集まりの時間が少し早くなってしまふからでした。わたしたちは、このパンさきの集会の前に集まる必要はないと感じました。これがからだの交わりです。わたしは兄弟たちに、「この特別集会は、わたしの特別集会です。これは、あなたがたには関係のないことです。わたしの管轄していることに、干渉しない

てください」と言うべきではありません。これはひどいことです。しかし、これがある場所における実際の実行です。外面的にはそうでなくても、少なくとも内面的にはそうです。

もしわたしたちが独立することを主張するなら、自分自身を損なうでしょう。わたしたちは、神はただ一つの召会を持たれることを、決して忘れるべきではありません。アナハイムに在る召会は、神の召会の小さな一部分であるにすぎません。わたしたちは、神の召会のほかにアナハイムに在る召会があると考えるべきではありません。わたしたちが神の召会のことを語る時、それは地方召会を意味します。何年も通して、わたしは次の学課を学びました。わたしたちが、召会が唯一であることを尊べば尊ぶほど、さらに多くの祝福を受けます。今日あなたが集会をしている召会は、スポークンあるいはアナハイムに在る召会であるかもしれませんが、これらは召会の一部分にすぎないことを、わたしたちは覚えておかなければなりません。それらは独立してはいません。わたしたちは、お互いに頼っています。すべての召会は、他の召会の助けを必要とします。なぜなら、わたしたちは一つからだであるからです。わたしたちは、からだを見なければなりません。

わたしたちはこの地上にいるので、時間と空間によって制限されており、多くの事務的な事柄があります。アナハイムの聖徒たちと、サンフランシスコの聖徒たちと、フレズノの聖徒たちは、常に一緒に集会をすることはできません。距離的に不便なため、これは不可能です。彼らは、彼ら自身の特別な活動を持つ必要があります。フレズノにある召会は、小さな集会所を借りる決定をするかもしれません。ところが、アナハイムに在る召会は、大きな集会所で集会します。これは全く、実行上の必要によります。しかし、これはいかなる分裂や、分離や、独立を示すものではありません。

すべての召会が特別集会のために共に集まる時、他の都市からやってくる人たちは、その特別集会で機能しないかもしれません。彼らは、「これは、わたしの地元の召会ではない」、と思うかもしれません。その結果、彼らは機能しようとしません。しかし、特別集会が持たれている地方に住んでいる兄弟たちは、頻繁に機能するかもしれません。なぜなら、彼らは、「これは、わたしの地元の召会である」、と考えるからです。親愛な聖徒たち、これは間違っています。主は、ただ一つのからだを持っておられます。神の召会は、ただ一つです。コリント人への第一の手紙第 10 章 32 節でパウロは、この地上における三部類の人々について語りました。神の選びの民であるユダヤ人、未信者の異邦人であるギリシャ人、キリストにある信者たちの構成体である神の召会です。召会は、この地上においてただ一つです。もしわたしがロンドンに行くなら、自分は合衆国から来た者だから、これは彼らの召会であるなどと考えるべきではありません。わたしは、自分は客であり、彼らが主人であり、管轄権を持ち、自分はその召会に何の関心も持たない、と考えるべきではありません。これは間違っています。わたしは、自分は、宇宙的な、また時には地方的である神の召会の一肢体であると考えべきです。「時には」と言うのは構いませんが、「常に」というのは良くありません。

二千年前、通信や交通手段は、今日のように便利ではありませんでした。五十年前でさえ、わたしの故郷チーフー（煙台）から上海へ船で旅するのに、四十八時間かかりました。第二次世界大戦後は、この距離を飛行機で旅するのに、四十五分しかかかりません。今日、世界はとても小さくなりました。わたしは、世界情勢がこのような方向に進みつつあるのを、とてもうれしく思います。これは、わたしたちがキリストのからだの真の一を経験するためです。どうしてわたしたちは、自分自身を独立させ、いわゆるの管轄権を維持して、

「これはわたしの市です。これはわたしの国です。これはわたしの地域です」と言うことができるでしょうか？ 今日の世界において、また今日の回復において、わたしたちはこうすることはできませんし、またこうするべきではありません。

わたしたちは一を守るべきである

主イエスはこのために、ヨハネによる福音書第 17 章で祈られました。彼は父に祈りました、「それはわたしたちと同様に彼らが一であるためです」（11、21 節）。わたしたちは一を守るべきです。もしわたしたちの心が狭く、独立しており、自分の地方における管轄権を主張するなら、自分の地方の人たちと一つ心になることさえできないでしょう。宇宙的に、わたしたちは一つであるべきです。地方的に、わたしたちは一つ心であるべきです。あなたは主の祝福を見ることを望みますか？ あなたは、「二つの層の学課」を学ばなければなりません。地方的に、あなたは聖徒たちと一つ心で仕えなければなりません。宇宙的に、すべての召会は一つであるべきです。

主の回復における今日の問題はすべて一つのこと、すなわち、わたしたちがからだを見ていないことによります。もしわたしたちがからだを見ているなら、問題はありません。そうすれば、わたしたちがパンさきの集会で、種入れパンと種入れぬパンのどちらを用いるべきか、またぶどう酒とグレープジュースのどちらを用いるべきかというような小さな事柄は、問題ではなくなります。わたしたちが父、子、霊の三重の分与を受けている限り、すべては問題ありません。わたしたちがもろもろの天からの、超越したキリストの伝達の下にとどまるなら、すべては問題ありません。

からだは召会の内在的意義である

わたしたちは、パウロがエペソ人への手紙第 1 章で、キリストのからだを提示する方法を見なければなりません。パウロは、神はキリストをよみがえらせ、彼をもろもろの天に座せしめ、万物を彼の足の下に従わせ、彼を万物の上にかしらとして召会に与えられた、と言いました。直ちに続く句で彼は、「この召会は彼のからだである」と言いました（23 節前半）。召会はからだです。これは、からだは召会の内在的な意義であることを示します。からだなしの召会は、何も意味しません。ギリシャ語では、召会はエクレスΙΑ、すなわち、召し出された者たちの集まりです。しかし、この集まりの意義はからだです。

今日の回復には、全世界で千二百以上の召会があります。しかしながら、わたしたちすべては一つからだです。もしわたしたちが自分自身を、個々の召会や個々の信者と見なすなら、おしまいです。わたしたちは自分自身を、一つからだと見なすべきです。もしわたしたちの体の各部分が、その管轄権を守り、自治的であろうとするなら、わたしたちの体は終わりです。しかし、主に感謝します。わたしたちの体の肢体すべては互いに服従しているのです。わたしたちの体は支障なく活動し、機能することができます。仮に、わたしたちがある所に行きたくて、わたしたちの体のすべての部分が同意したのに、足だけが同意しなかったとしたらどうでしょうか？ もし足が話すことができたなら、他の肢体に言うかもしれない、「あなたがたは、わたしたちが疲れていることを知らないのですか？ あなたがたには愛がありません。あなたがたは、わたしたちに同情してくれません。あなたがたは行くことを望んでいますが、わたしたちは行きたくありません。わたしたちには、行く力がないからです」。これは、いったいどのような種類の体でしょうか？ 実際的に

は、体ではありません。これは、体でなくなってしまうことです。今日、クリスチャンたちの間では、キリストのからだに関してはこのようです。彼らは、からだでなくなっています。

少なくともわたしは、自分自身と自分より年長の兄弟、ウォッチマン・ニー兄弟については、証しすることができます。わたしたちは常に一つからだとして、回復の中で振る舞い、活動し、行動しました。この理由により、主の回復はこの地上に、過去約七十年以上も存続してきました。わたしたちには、何かを維持するための組織は何もありません。しかし、回復はなおここにあります。回復はなお存続しており、からだの原則によって保たれてきました。わたしは御言葉を供給している時、しばしばニー兄弟のことを考慮しました。わたしは、彼が語ったことを考慮しました。わたしは、彼の務めと矛盾することは何も語りたくありませんでした。もしわたしが矛盾する方法で語っていたら、今日、回復はどこにあるのでしょうか？ わたしたちは、からだを知らなければなりません。

わたしは再び、からだが召会の内在的な意義であることを言いたいと思います。もしからだがないのでしたら、召会には何の意味もないでしょう。召会は、からだなしには何の意味もありません。しかし、ハレルヤ！ からだがあります！ からだがなければ、召会には意味がありませんが、からだがあれば、召会の内在的な意義があるのです。

召会とからだの違いは何でしょうか？ わたしたちは、神の召会は枠組みであり、キリストのからだは有機体であることを、見る必要があります。わたしたちは、りんごの木を例証として用いることができます。木は枠組みであり、りんごはこの木の有機的な本質そのものです。もしあなたが木しか持っていないのであれば、それはあまり多くの意味を持ちません。木はりんごのためにあります。わたしたちは木を食べるのではなく、りんごを食べるのです。りんごは木から出てきます。召会は枠組みです。それはりんごの木のようにです。そして、キリストのからだは、召会の有機的な本質そのものです。それはちょうどりんごが、りんごの木の有機的な本質そのものであるようにです。これら二つは一つです。召会は、存在するための枠組みです。キリストのからだは、人々の満足のための有機的な内容そのものです。

わたしたちは一つのことによって、多くの反対に出くわしました。わたしたちがここにいるのは、魂を救う福音だけのためではありません。わたしたちがここにいるのは、神の永遠のエコノミーを遂行するためであり、その目的は、彼の御子、キリストのためにからだを獲得することです。そしてこのからだは、諸地方召会へとまとめられなければなりません。アメリカには、今までに多くの霊的巨人がいましたが、だれも召会に気をとめませんでした。彼らは、ただ魂を救うことだけに気をとめました。しかし、今日、それら多くの魂はどこにいるのでしょうか？ どこに神のエコノミーがあるのでしょうか？ どこにからだのためである召会があるのでしょうか？ 今日、どこに「りんごの木」があり、どこに「りんご」があるのでしょうか？ 神のエコノミーに関する限り、この地上には、神の心の願いに従った神の意図の成就是、わずかしかありません。しかし、わたしは全き確信を持っていますが、わたしたちが今日、彼のあわれみと恵みによって顧みている回復は、絶対的に主からのものです。主の語りかけがこれを最も強く証明しています。何年も通じ、この地上における主の託宣は、回復の中にありましたし、今なおあります。

三一の神とキリストにある信者たちとの神聖な構成体

キリストのからだは、三一の神とキリストにある信者たちとの神聖な構成体です。エペソ人への手紙第4章4節から6節は、三つの神聖なパースンと彼のすべての選びの民との構成体を示しています。ですから、わたしたちは、一つにミングリングされている一つからだ、一つ霊、一つ主、一つ神と父を持ちます。

神性と人性とのミングリング

キリストのからだは、神聖な三一と彼が選ばれたすべての人とのミングリングです。それは、神性と人性とのミングリングです。

神聖であり人であり、キリストを表現する有機体

キリストのからだは、一つの有機体です。一方において、それは神聖です。他方において、それは人であり、神聖であり人であるキリスト、すなわち神全体であり完全な人である方を表現します。

すべてを含むキリストの豊満

キリストのからだは、すべてを含むキリスト、すなわちすべての中で、すべてを満たしている方の豊満です（エペソ1:23）。エペソ人への手紙の中には、「キリストのもろもろの豊富」と「キリストの豊満」という二つの用語があります。豊満は、キリストのもろもろの豊富の結果（3:8）であり、これら内側のもろもろの豊富の表現です。1962年、わたしは招かれて、ベイエリアのあるグループの人々に語りました。わたしの主題は、キリストのもろもろの豊富が彼の豊満という結果になる、というものでした。彼らはこの主題に驚きました。

多くのクリスチャンは、豊満と豊富が同じものであると思っています。しかし、豊満は、もろもろの豊富の結果また表現です。背の高い、がっしりしたアメリカ人の兄弟は、多くのアメリカの豊富を食べています。これらすべてのアメリカの豊富は、彼によって消化され、吸収され、彼は今、アメリカの豊満、すなわちアメリカのもろもろの豊富の結果また表現となっています。

わたしたちは、キリストと同じである必要があります。わたしたちはキリストのもろもろの豊富を享受して、キリストの豊満になるべきです。わたしたちがもろもろの豊富で満たされる時、豊満があふれ出ます。カップの中に水があっても、わたしたちは水を見ることはできません。しかし、もしカップがふちまで水で満たされているなら、水があふれ出るでしょう。このあふれ出は、水の豊満、表現です。わたしたちはキリストで満たされて、キリストがあふれ出るまでになる必要があります。このあふれ出は豊満であり、豊満は表現です。

有機的な唯一のキリストのからだは、多くの地方召会で表現される

有機的なからだは、分けられないし、分けることもできません（Iコリント1:13前半）。このからだは自治的ではありません。この唯一のキリストのからだは、三一の神がそうであるように神聖な一において（ヨハネ17:11、21、23）、また神聖な性質、要素、本質、表現、機能、証しにおいて、多くの地方召会で表現されます（啓1:11）。多くの召会がありますが、それらは一つの神聖な性質、一つの神聖な要素、一つの神聖な本質、一つの神

聖な表現、一つの神聖な機能、一つの神聖な証しを持っています。なぜなら、それらは一つからだであるからです。この理由によりわたしは、わたしたちの諸問題は、からだを見ていないことによると言うのです。もしわたしたちがからだを見ているなら、何も問題はないでしょう。一つからだの原則と実行は、実際的な一つ心の中にある信者たちによって保たれます（使徒 1:14、2:46、4:24、5:12、15:25、ローマ 15:6）。

キリストのからだの神聖な一を保つ

キリストのからだの神聖な一は、からだの地方的表現である諸地方召会において、また普遍的な源と実質において、保たれるべきです。あらゆる点において、わたしたちは、キリストのからだの神聖な一を保つべきです。

キリストのからだの神聖な一を保つことは、完成の時代における主の回復の一つの重要な点である

キリストのからだの真の一は、完成の時代における主の回復の一つの重要な点です。主は、彼のエコノミーを完成しようとしておられます。ですから、一を守ることは、非常に重要なことです。

召会のすべての問題は、キリストのからだについての無知による

今日、召会のすべての問題は、キリストのからだについての無知によります。わたしたちの間には、この無知はあるべきでなく、全き認識があるべきです。わたしたちは、知恵と啓示の霊を持ち、わたしたちの心の目が明らかにされて、キリストのからだを見、把握する必要があります。（「手順を経られた三一の分与と超越したキリストの伝達の結果」、第6章）

参考と参照資料：

1. リー全集、1988年、第2巻、「命の言葉」、第8章（未訳）。
2. リー全集、1994年—1997年、第1巻（上）、「ブレンディングに関する実行的な要点」、第2編。
3. リー全集、1993年、第2巻、「手順を経られた三一の分与と超越したキリストの伝達の結果」、第6章。
4. リー全集、1993年、第2巻、「召会生活の中で引き起こされた騒動の問題」、第3章（未訳）。
5. リー全集、1956年、第1巻、「召会はキリストのからだ」、第1章、第2章（未訳）。
6. リー全集、1984年、第3巻（下）、「神の新約エコノミー」、第41編。

2024年5月全国特別集会

主題：神の新約エコノミーの四つの層の意義

メッセージ 4

第四の層——神の諸召会

聖書：マタイ 16:18, 18:17. I コリント 1:2. 啓 1:11-12

- I. 神の諸召会は神の新約エコノミーの第四の層の意義です——エペソ 1:22-23. マタイ 16:18, 18:17. I コリント 1:2. 啓 1:11-12.
- II. 召会に関して、聖書には「神の召会」（I コリント 10:32）と「神の諸召会」（11:16）という二つの用語があります。「神の召会」は宇宙召会、キリストの唯一のからだを指し、神の諸召会は諸地方召会を指します：
 - 一. このからだは地上において具体的な表現を持ち、地上において実際の出現を持つ必要があります。諸地方召会はキリストのからだの実際的な表現です——マタイ 16:18, 18:17. エペソ 1:22-23, 2:21-22. 啓 1:11：
 1. 神はキリストにおいて表現され、キリストは彼のからだにおいて表現され、そしてこのからだは諸地方召会において表現されます——コロサイ 2:2, 9. エペソ 3:4. 啓 1:11. 参考、詩歌 593 番。
 2. 諸地方召会がなければ、召会是一种の用語だけになってしまいます。召会はそのもの、将来のもの、わたしたちが待ち望むべきものとなってしまい、今日この地上で、あまり真実で実際的ではなくなってしまう。
 - 二. 地方召会は、一地方におけるキリストのからだの表現です——I コリント 1:2. 10:32 後半, 17. 12:12-13, 20, 27：
 1. キリストの唯一のからだが多く地方召会の中で表現されるのは、三一の神が一であるように、神聖な一においてであり、また神聖な性質、要素、本質、表現、機能、証しにおいてです。多くの召会がありますが、諸召会はその神聖な性質、一つの神聖な要素、一つの神聖な本質、一つの神聖な表現、一つの神聖な機能、一つの神聖な証しを持っています。なぜなら、諸召会はそのからだであるからです——啓 1:11. ヨハネ 17:11, 21, 23。
 2. マタイ第 16 章 18 節で啓示されている召会は、宇宙召会、キリストの唯一のからだです。第 18 章 17 節で啓示されている召会は、地方召会、一地方におけるキリストの唯一のからだの表現です。
 3. 一つの宇宙召会、すなわちキリストのからだは、多くの地方召会、すなわちキリストのからだの地方における表現となっています——ローマ 12:4-5. 16:16。
 4. キリストの唯一のからだは、多くの地方において、諸地方召会として表現されます——エペソ 4:4. 啓 1:4, 11：
 - a. キリストのからだは、地方召会の源です——エペソ 1:22-23. 2:21-22。
 - b. 宇宙的なからだは、諸召会の父親のようなものです。諸召会は、父親の子供たちのようなものです——ローマ 12:4-5. 16:4。
 5. それぞれの地方召会は、キリストの唯一で宇宙的なからだの一部であり、このからだの地方における表現です——エペソ 4:4. I コリント 1:2. 12:27：

- a. 宇宙的には、諸召会は一つからだです。地方的には、それぞれの地方召会は、宇宙的なからだの地方における表現です。ですから、地方召会はからだではなく、からだの一部分、すなわちからだの表現にすぎません。
 - b. 宇宙的なキリストは、あらゆる地方召会においてご自身の一部分を持っています。あらゆる地方召会はキリストの一部分であり、これらの部分のすべてがキリストのからだを構成します——エペソ 1:23. 2:22。
6. 召会の地方の立場は、基本的に、キリストのからだの唯一の一が、諸地方召会で実行されることです——エペソ 4:4. I テサロニケ 1:1 :
- a. キリストの宇宙的なからだと諸地方召会は、いずれも唯一無二のものです。
 - b. 全宇宙には、唯一のからだがあります。それぞれの地方には、それぞれ唯一の地方召会があります。
 - c. この唯一の一は、召会生活の中の基本的な要素です——使徒 1:14. 2:46. I コリント 1:10. ピリピ 1:27. 2:1-2。
7. さまざまな地方における諸召会は、キリストの宇宙的な表現のためです——エペソ 1:23. 啓 1:4, 12. 22:16 前半 :
- a. 一地方召会が、すべての事を地方的にして、自分の地方だけを表現しているなら、それは一地方の分派、一地方の分裂となっています。
 - b. キリストのからだのためのすべての基本的な事柄、すなわち、その霊、キリスト、神、聖書、使徒たちの教え、使徒たちの交わりはみな、地方的ではありません。

Ⅲ. 啓示録は、イエスの証しとしての諸召会に関する書です——啓 1:1-2, 9, 11. 22:16 前半 :

- 一. イエスの証しは、個人のクリスチャンではなく、それは諸地方召会、すなわち、実行上の召会です——1:2, 9, 11 :
- 1. わたしたちのいる地方の人々にイエスを示すためには、イエスがだれであるかを証しする地方召会が必要になります。こういうわけで、わたしたちの地方における召会は、キリストのかたち、表現、現れ、美德を担うべきです——コロサイ 1:15. 3:10。
- 2. 諸地方召会はすべてを含むキリストの表現ですから、それらはイエスの証しです——11 節. 啓 1:2, 9, 11。
- 二. 啓示録の最初の三章の中心的概念は、七つの燭台が七つの地方召会であって、神の表現になるということです——啓 1:11, 20 :
- 1. 金の燭台としての召会は、イエスの証しを担います——2, 9 節. 20:4 :
- a. イエスの証しとは、御子はその霊によって、御父と共にやって来て、地上で生き、十字架上で死なれ、宇宙を一掃し、神聖な命を解き放ち、死人の中から復活して、命を与える霊に成ったことを証しすることです。この霊は、御子として、御父と共にやって来て、神性、人性、人の生活、十字架、復活と複合され、神聖な属性と人性の美德のすべてを含んでいます——ヨハネ 10:38. I コリント 15:45。
- b. そのような複合の証しが、イエスの証しです。そしてこの証しには、一つの象徴、すなわち、金の燭台があります——啓 1:12, 20。

2. 地方召会は金の燭台として、唯一の燭台であるキリストの複製です——11-12, 20 節 :
 - a. 出エジプト記第 25 章では、神の具体化また表現であるキリストは、唯一の燭台によって予表されています。しかし、啓示録では、この燭台は複製されています。それぞれの燭台は、出エジプト記第 25 章で啓示されている燭台の複製です。
 - b. すべての燭台あるいは地方召会が加えられて一つになると、それらはキリストの増殖、すなわち、三一の神の増殖した具体化また表現であり、イエスの証しとなります——啓 1:2, 9, 11-12, 20。
3. 金の燭台が表徴していることは、三一の神の具体化また表現としての召会が、ともし火としての七倍に強化された神の霊をもって、輝いて、イエスの証しになるということです——20 節. 4:5 :
 - a. 燭台としての諸地方召会は、各都市でイエス・キリストの証しを担い、地方において、しかし集団的に輝きます——1:2, 9, 20. 20:4。
 - b. それぞれの地方召会は、金の燭台であり、ともし火としての七倍に強化された神の霊を持っており、この暗い時代において、その地方から、イエスの証しを輝かします——2:1, 5。

IV. 地方召会は新エルサレムへの踏み石です——1:11-12. 21:2, 9 :

- 一. 聖書の最後の書である啓示録の第 1 章で、わたしたちは七つの地方召会を見ます。それから最後の二つの章で、わたしたちは新しい天と新しい地にある新エルサレムを見ます。
- 二. 地方召会は、唯一の召会への門と考えられます。この唯一の召会は新エルサレムにおいて究極的に完成されます。わたしたちが諸召会にいる目標は、ある日、新エルサレムにいることです。

務めの書物からの抜粋 :

召会はどこにあるか？

多くの人はキリストの表現としての召会について語りますが、しばらく考えた後、わたしたちは「召会はどこにあるのですか？」と尋ねるでしょう。もしわたしたちが召会はキリストの表現であると言うなら、それはどこにあるのでしょうか？ 人々がキリストの表現としての召会について語る時、それはすばらしく聞こえるのですが、わたしたちはすばらしい事柄を実行に移さなければなりません。もしあなたがわたしと話すなら、わたしはこう答えるでしょう、「兄弟、それは聞こえは良いのですが、わたしはどのようにしてその中に入り込むことができるのでしょうか？ 召会がキリストの表現であるというのはすばらしいのですが、わたしはその中にいたいのです。それがどこにあるのか教えてください」。

もしわたしたちが、キリストの表現としての召会について教えている多くの教師たちにこのような実行上の質問をするなら、彼らを窮地に追い込むでしょう。彼らは直ちに当惑し、困惑してしまうでしょう。彼らは混乱し、答えるのが難しいことを見いだすでしょう。

キリストの表現としての召会は、非常に天的で、霊的で、すばらしいです。しかし、わ

たしたちはその中に入り込み、それを持ちたいのです！ 召会がそんなにも天的で、すばらしいなら、それはどこにあるのでしょうか？ わたしたちはそのようなすばらしいものを、どこで見いだすことができるのでしょうか？

教師たちは、召会はあまりに霊的であり、この地に属するものではなく、天にあるものであると告げるかもしれません。もしこれが事実なら、この地上のどの地方においても、召会が存在することは不可能であり、わたしたちは永遠まで待たなければならないという結論を出さなければなりません。こういうわけで、わたしたちが今日、召会を持つ理由はなく、また今日、召会の事柄について語る必要はありません。もしわたしたちが永遠まで待たなければならないなら、今、召会を顧慮する必要はありません。

諸地方召会

ですから、これは問題であることがわかります。人々はただ一つの面だけを見て、他の面を見ていません。召会に関して、聖書の中に二つの用語があります。「神の召会」（I コリント 10:32）と「神の諸召会」（11:16）です。召会是一个でしょうか、それとも多数でしょうか？ 神の召会は宇宙的ですが、神の諸召会は非常に多くの地方において表現されます。

召会はキリストの表現ですが、召会はどのようにして、実行上、表現されるのでしょうか？ それは、ただ諸地方召会によってのみ、すなわちそれぞれの地方における一つの召会によってのみ表現されるのです。キリストの表現としての召会は、宇宙に一つですが、それは多くの場所において、すなわち多くの諸地方召会において表現されます。

召会は諸地方召会がなければ、決して表現され得ません。すべての地方召会は、召会の実行上の表現です。こういうわけで、マタイによる福音書第 16 章 18 節で主イエスは、岩の上に召会を建てることを述べられたのです。しかし、マタイによる福音書第 18 章 15 節から 20 節で主は、地方召会についてある事を言われました。マタイによる福音書第 18 章で述べられている召会は、地方召会であるに違いありません。なぜならそれは、わたしたちが行くことのできる場所であるからです。主は、もしあなたが一人の兄弟に対して何か問題を持つなら、まずその兄弟の所に行きなさいと言われました。もし彼があなたの言うことを聞くなら、問題は解決されます。しかし、もし彼が聞かないなら、あなたは一人か二人と一緒に連れて行き、彼に証しし、彼が彼らの言うことを聞くことを期待しなければなりません。もし彼がそれでも聞かないなら、その問題を召会に持って行くべきです。もちろん、これは地方召会であるに違いありません。それは宇宙召会ではあり得ないでしょう。わたしたちは決して問題を宇宙召会に持って行くことはできません。

仮に、「あなた」が一人の兄弟に対して問題を持つとします。あなたには行くべき召会がありますか？ あなたの地方には、あなたが行くことのできる場所がありますか？ もしないなら、あなたの都市には召会の実行上の表現がありません。

キリストの表現である召会の実行上の表現とは何でしょうか？ それは諸地方召会です。諸地方召会がなければ、召会が表現される可能性はありません。諸地方召会がなければ、召会は一種の用語だけになってしまいます。召会は天にあるもの、将来あるもの、わたしたちが待ち望むべきものとなってしまい、今日この地上で、あまり実際的で実行的ではなくなってしまいます。

しかしながら、聖書によれば、召会は極めて実行的です。マタイによる福音書第 18 章で

主イエスはわたしたちに告げていますが、もしわたしたちが一人の兄弟に対して問題を持ち、それが二人または三人の兄弟でも解決することができないなら、わたしたちはそれを召会に持って行かなければなりません。これが実行における地方召会であることに、疑いの余地はありません。

それから、使徒行伝でわたしたちは直ちに、地上の召会の最初の表現を見ます。「エルサレムに在る召会」(8:1)。それは、天にある召会のことを言っているのではなく、エルサレムに在る召会のことを言っています。それは地方召会であり、この地方召会は宇宙召会の表現です。使徒行伝第13章1節には、「アンテオケの地に在る召会」があります。これは召会のもう一つの表現であって、もう一つの地方召会です。今やわたしたちは、少なくとも二つの表現を持った一つの召会を見ることができます。一つはエルサレムにあり、もう一つはアンテオケにあります。すべての地方召会は、一つの(宇宙)召会の表現です。

わたしたちが新約聖書を読み続けると、「ケンクレヤに在る召会」(ローマ16:1)、「コリントに在る神の召会」(Ⅰコリント1:2、Ⅱコリント1:1)を見ます。聖書は、一つの場所に在る諸召会については決して語らず、常に、特定の場所に在る召会、言い換えるならば、エルサレムに在る召会、アンテオケに在る召会、ケンクレヤに在る召会、コリントに在る召会について語っています。すべての地方召会は、一つの召会の表現です。召会一つですが、召会の表現は多く、召会のこれら多くの表現が諸地方召会なのです。新約聖書で述べられている「ユダヤの諸召会」(ガラテヤ1:22、Ⅰテサロニケ2:14)、「異邦人の諸召会」(ローマ16:4)、シリアとキリキヤの諸召会(使徒15:41)、至る所の「あらゆる召会」(Ⅰコリント4:17、使徒14:23)、「神の諸召会」(Ⅰコリント11:16)、「キリストの……召会」(ローマ16:16)、「聖徒たちのすべての召会」(Ⅰコリント14:33)、「すべての召会」(7:17)は、諸地方召会を指しており、それらはユダヤ人世界と異邦人世界の両方において、第一世紀にこの地上にあった一つの宇宙召会の多くの地方的表現でした。

一つの都市、一つの召会

諸地方召会に関して、古代ローマ帝国の三つの州が、新約聖書で述べられています。それはアジア、ガラテヤ、マケドニアです。アジア、ガラテヤ、マケドニアはすべて州であったので、聖書は「アジアの諸召会」(Ⅰコリント16:19)、「ガラテヤの諸召会」(ガラテヤ1:2、Ⅰコリント16:1)、「マケドニアの諸召会」(Ⅱコリント8:1)と述べています。多くの召会が一つの州にあったのは、多くの都市が一つの州にあったからです。

一つの州には多くの召会があるかもしれませんが、一つの都市には多くの召会があるべきではありません。一つの都市には一つの召会、一つの地方召会だけがあるべきです。ですから、啓示録第1章11節は、アジア州には少なくとも七つの都市に七つの地方召会があったと告げているのです。エペソ市に、スミルナ市に、ペルガモ市に、テアテラ市に、サルデス市に、ヒラデルヒヤ市に、ラオデキヤ市に召会がありました。これら七つの都市の各都市に、一つの地方召会がありました。多くの都市には多くの地方召会がありますが、一つの都市には、ただ一つの地方召会があるだけでなければなりません。諸地方召会は、一つの宇宙召会の表現です。わたしたちは召会の実行上の表現と言うとき、諸地方召会を意味します。(リー全集、1968年、第1巻(下)、「召会の実行上の表現」、第3編)

地方召会はイエスの証しである

啓示録第1章1節は、神がすぐにも起こるべき事を彼の奴隷たちに示すために、この啓示を与えたと言います。わたしたちはキリストの啓示を知っているなら、これが単に将来において起こる出来事の預言ではないことを認識するでしょう。むしろ、それらはすべて、キリスト、神聖な獅子、彼の多くの行ないと関係のある事柄です。2節はヨハネが、「神の言とイエス・キリストの証し、すなわち自分が見たすべてのことを証した」と言います。それから、9節は言います、「わたしヨハネは、あなたがたの兄弟であり、イエスにある患難と王国と忍耐とに共にあずかっている者であるが、神の言とイエスの証しのゆえに、パトモスと呼ばれる島にいた」。わたしは初めて合衆国に来てから、イエスの証しについて語ることを考えてきましたが、このように語る時は熟していませんでした。今回、わたしには真理のこの要点を解き放つ負担があります。イエスの証しは拡大されたキリストです。ある人の証しは、その人の明確な写真をわたしたちに与えます。ある人がわたしの写真を見るなら、わたしがどのような種類の人であるかを知るでしょう。これがわたしの「証し」です。この宇宙にはイエスという名のすばらしい、奥義的な方がいますが、彼は今日どこにいますか？ 彼はわたしたちの都市にいますが、どのようにして人々は彼を見ることができるのでしょうか？ 疑いもなく、地方召会、各都市における召会が今日のイエスの証しです。

イエスの証しは実行上の召会であって、「空中にある」召会や、来たるべき召会ではありません。まだ来ていない召会はイエスを地上の人々に見せることはできません。また「天上の」召会はイエスを御使いに見せるかもしれませんが、それはイエスを地上の人々に見せることはできません。わたしたちの地方において人々にイエスを見せるために、わたしたちの地方においてイエスがだれであるかを証しする召会の必要があります。ある人がある地方においてイエスを見たいなら、その地方に在る召会に来なければなりません。ですから、わたしたちは真にイエスのかたちを帯びているかどうかを考慮する必要があります。もしわたしたちがある人の不鮮明な写真を見せるなら、それは彼のかたちと現れを伴う適切な証しとはならないでしょう。わたしたちは写真の中に何かを見るかもしれませんが、それはわたしたちが見せようとしている人ではないでしょう。召会はわたしたちの地方においてキリストのかたち、表現、現れ、美德を帯びていなければなりません。（リー全集、1975年—1976年、第1巻（下）、「イエスの証し」、第1編）

地方召会は新エルサレムを生み出す必要がある

啓示録における第四の最終のビジョンは、第21章と第22章の小羊の花嫁また妻である新エルサレムのビジョンです。この世やキリスト教世界は全く新エルサレムになることはできません。今日、召会の中にいる人たちや事柄だけがそこにあるでしょう。わたしたちはある日、新エルサレムになるという目標をもって召会の中にいます。この意味で、諸地方召会は新エルサレムへの足がかりです。新エルサレムは一ですが、その門は十二です（21:12-13）。同じように、召会は一ですが、諸召会が多いのです。地方召会は、新エルサレムで究極的に完成する唯一の召会への門と考えられます。新エルサレムの門は羅針盤の四方向、すなわち人の住む全地に向かっています。多くの諸召会を通して、この世のすべての民は新エルサレムへの入り口を持ちます。

啓示録の始めには諸地方召会があり、終わりには新エルサレムがあります。諸地方召会は新エルサレムのためです。わたしたちは今日諸地方召会を飛び越えて、将来、直接、新エルサレムの中へと入ることはできません。今日、多くのクリスチャンはこの世や背教のキリスト教世界を見逃してきましたが、彼らはまた地方的な実行性を持つ召会を見逃して、「天的で」抽象的な方法の召会だけを顧慮しようとしています。この世とキリスト教世界を無視することは確かに正しいのですが、諸地方召会を無視してはなりません。わたしたちはまだ新天新地にはいません。わたしたちは今日依然として地上におり、諸地方召会なしに前進することはできません。（リー全集、1969年、第2巻（上）、「七倍の霊と共にある諸地方召会の回復」、第1編）

参考と読み物の資料：

1. 「命の言葉」、第8章。
2. リー全集、1968年、第1巻（下）、「召会の実行上の表現」、第3、4、6、8-10編。
3. リー全集、1969年、第3巻（下）、「霊を活用し、霊にしたがって歩いて召会を建造する」、第4編。
4. リー全集、1957年、第1巻、「召会の立場とからだの奉仕」、第2編（未訳）。
5. リー全集、1957年、第2巻、「教会の証しと立場」、第2部、第1-6編（未訳）。
6. 「ローマ人への手紙ライフスタディ」、第32編。
7. 「新約の結論」、メッセージ192。
8. 「神聖なエコノミー」、第14章。「神の新約エコノミー」、第24章。
9. リー全集、1969年、第2巻（上）、「七倍の霊と共にある地方召会の回復」、第1編。

2024年5月全国特別集会
主題：神の新約エコノミーの四つの層の意義

メッセージ 5

主が戻って来られるまで、パンをさくことを堅く持ち続ける

聖書：

ルカ 22:19-20 「それから、イエスはパンを取って感謝をささげ、それをさいて彼らに与え言われた、『これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念にこれを行ないなさい』。彼らが食事をした後、杯も同じようにして言われた、『この杯は、あなたがたのために注ぎ出される、わたしの血によって立てられた新しい契約である』」。

マルコ 14:25 「まことに、わたしはあなたがたに言うておく。神の王国で新しく飲むその日まで、わたしはぶどうからできたものを、もはや決して飲むことはしない」。

I コリント 11:20, 23-26 「……主の晩餐を食べること……わたしは主から受けたことを、あなたがたにも伝えました。すなわち、主イエスは裏切られたその夜、パンを取り、感謝をささげてから、それをさいて言われました、『これは、あなたがたのために与えるわたしの体である。これを行ない、わたしの記念としなさい』。彼らがそれを食べた後、杯も同じようにして、言われました、『この杯は、わたしの血によって立てられた新しい契約である。それを飲むたびに、これを行ない、わたしの記念としなさい』。ですから、あなたがたがこのパンを食べ、その杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです」。

I コリント 10:16-17, 21 「わたしたちが祝福する祝福の杯、それはキリストの血の交わりではありませんか？ わたしたちがさくパン、それはキリストの体の交わりではありませんか？ 一つパンであるからには、わたしたちは数が多くても一つからだなのです。それは、わたしたちがみなこの一つパンにあずかるからです。……主の食卓……にあずかる……」。

使徒 2:42 「そして、彼らは使徒たちの教えと交わりを堅く持ち続け、パンをさくことと祈りを堅く持ち続けた」。

使徒 2:46 「また日ごとに、一つ思いで宮に堅く居続け、家から家でパンをさき、歡喜して真な心で食物にあずかり」

使徒 20:7 「そして週の初めの日、わたしたちがパンをさくために集まった時、パウロは翌日、出発することになっていたため、彼らと語り合った。そして彼のメッセージは夜中まで続いた」。

I. 主は自らわたしたちがパンさきの集会にあずかるように命じました——ルカ 22:19-20。

II. パンをさくことは、主の晩餐を食べ、主の食卓（宴席）に着くことです——使徒 20:7.

I コリント 11:20. 10:21 :

一. 主の晩餐は主の満足のためです——11:20 :

1. 主の晩餐の重点は、主を記念することです——24-25 節。

2. 主の晩餐は、わたしたちが地上に生きているのは主の満足のためであることを、思い起こさせるはずです。主の晩餐を食べることは、召会の中で王国をもたらす生活をして、主イエスを満足させることであることを、わたしたちに思い起こさせます——マルコ 14:25。

二. 主の食卓は、交わりの中で主を享受することを指しています—— I コリント 10:21:

1. 主の食卓の意義は、享受をもってあずかり、享受をもって交わることです—— 1:9。

2. 主の食卓にあずかることは、わたしたちが霊的に養われて、命の中で成長するのに最上の道です——10:3-4. 3:6-7. エペソ 4:16。

III. 主の晩餐、主の食卓は、神の新約エコノミー全体の象徴です——マルコ 14:22-26 :

一. 神の新約エコノミーとは、神が肉体と成り、人の生活、死、復活を経過して、命を与える霊と成り、わたしたちの中に命として入って、ご自身をわたしたちの中へと分与し、わたしたちが造り変えられて、キリストのからだとしての召会を建造するという事です——ヨハネ 1:14. I コリント 15:45 後半. 6:17. II コリント 3:18. ローマ 12:2. エペソ 4:16。

二. 新約のこの新しい実行は、パンを食べ杯を飲んで主を記念することです。パンは、わたしたち信者のために与えられた主の体を象徴し、杯は、わたしたちの罪のために流された主の血を象徴します—— I コリント 11:24-25. マタイ 26:28。

三. パンを食べるものが表徴する意義 :

1. パンは、主が十字架上でわたしたちのためにささげて、彼の命をわたしたちの中に分け与える物質の体を表徴します——ルカ 22:19。

2. パンはまた、主の奥義的なからだを表徴します。このからだは、キリストが彼の天の務めを遂行して、神聖な行政を完成する手段です——エペソ 1:22-23. 4:16. 啓 5:6。

3. わたしたちは主の神聖な命にあずかることによって、キリストの奥義的なからだ、彼の拡大となります。わたしたちはパンを享受することによって、キリストの奥義的なからだとなります—— I コリント 10:17。

4. 主の食卓のパンを食べることは、主がわたしたちの中に命の供給として入って来て、わたしたちとミングリングされ、わたしたちとなることを示します——コロサイ 3:4。

四. 杯から飲むものが表徴する意義 :

1. 杯は祝福、すなわち、わたしたちの分としての神ご自身を指しています—— I コリント 10:16. 詩 16:5 :

a. 罪人として、わたしたちの分は神の激怒の杯であるはずでしたが、主イエスがわたしたちのために、この杯を飲んでくださいました——啓 14:10. ヨハネ 18:11。

b. 主の救いはわたしたちの分、すなわち、満ちあふれる救いの杯となりました。その内容は、すべてを含む祝福としての神です——詩 116:13. 23:5。

2. キリストの血は新契約の血であり、神の民を、新契約において神が民に与える祝福へと導きます——ルカ 22:20. ヘブル 8:10-12。

3. 究極的に、契約の血、永遠の契約の血は神の民を、神の満ち満ちた享受に、今

から永遠に至るまで導きます——13:20. 啓 7:14, 17. 22:1-2, 14, 17。

五. 主イエスが彼の晩餐、彼の食卓を設立して、彼に従う者たちに示されたことは、主が彼らを備えて彼の死と復活を受け入れさせ、彼の拡大、奥義的なからだとならせ、新しい人を生み出し、王国の種の完全な発展となるということです——ローマ 6:6. エペソ 2:5-6, 4:16. マルコ 4:26-29。

六. 今日、主イエスはなおもわたしたちを、彼の食卓の実際の中へともたらしめて、神のエコノミーを完成しようとしています——マタイ 26:26-30. I コリント 11:23-26. エペソ 1:10。

IV. わたしたちは主が戻って来られるまで、パンをさくことを堅く持ち続ける必要があります——I コリント 11:26 :

一. 初期の召会が祝福されたのは、使徒たちの教えと交わりを堅く持ち続け、パンをさくことと祈りを堅く持ち続けたからです——使徒 2:42。

二. 初期の召会の聖徒たちは常にパンをさきました。主日に実行する以外にも、日ごとにさえ家から家で実行することを堅く持ち続けました——I コリント 16:1. 使徒 2:46。

三. 主イエスは、彼が戻って来られるまで、わたしたちがこのようにパンをさき彼を記念するようにと求めておられます。このために、わたしたちは、彼の命令を守り、主が戻って来られるときに、彼を見逃さないようにしなければなりません——参照、ルカ 15:20。